

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2023年6月29日
【事業年度】	第69期（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）
【会社名】	株式会社ソフト99コーポレーション
【英訳名】	SOFT99corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 田中 秀明
【本店の所在の場所】	大阪市中央区谷町2丁目6番5号
【電話番号】	06（6942）8761（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 上尾 茂
【最寄りの連絡場所】	大阪市中央区谷町2丁目6番5号
【電話番号】	06（6942）8761
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 上尾 茂
【縦覧に供する場所】	株式会社ソフト99コーポレーション東京支店 （東京都江東区東雲2丁目11番12号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第65期	第66期	第67期	第68期	第69期
決算年月	2019年3月	2020年3月	2021年3月	2022年3月	2023年3月
売上高 (千円)	24,561,519	24,434,278	26,802,707	28,435,638	30,170,498
経常利益 (千円)	2,685,786	2,585,696	3,408,068	3,962,347	3,440,953
親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	1,861,765	1,824,141	1,539,988	2,755,473	2,063,803
包括利益 (千円)	1,567,595	1,822,862	2,043,364	2,577,671	2,145,199
純資産額 (千円)	47,006,772	48,380,284	49,874,560	51,391,833	52,772,384
総資産額 (千円)	53,867,022	55,255,234	57,286,291	59,231,129	60,377,314
1株当たり純資産額 (円)	2,162.14	2,217.42	2,282.97	2,369.05	2,429.95
1株当たり当期純利益 (円)	85.81	83.74	70.44	126.38	95.11
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	87.3	87.6	87.1	86.8	87.4
自己資本利益率 (%)	4.0	3.8	3.1	5.4	4.0
株価収益率 (倍)	10.85	8.96	18.30	9.73	13.49
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	2,377,605	2,606,317	3,215,485	3,090,918	2,619,340
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	941,312	1,077,918	1,698,149	736,743	2,176,945
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	270,056	563,239	650,749	1,120,473	516,079
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	16,818,096	17,782,287	18,649,552	19,885,775	19,813,659
従業員数 (人)	797	832	836	820	837
(ほか、平均臨時雇用者数)	(359)	(366)	(358)	(361)	(350)

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益の算定の基礎となる自己株式数については、「従業員持株会支援信託E S O P」に係る信託口が所有する当社株式を含めております。

3. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第68期の期首から適用しており、第68期以降に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第65期	第66期	第67期	第68期	第69期
決算年月	2019年3月	2020年3月	2021年3月	2022年3月	2023年3月
売上高 (千円)	12,415,589	12,459,116	14,003,411	14,404,717	15,120,026
経常利益 (千円)	1,874,655	1,865,236	2,654,405	2,820,806	2,495,657
当期純利益 (千円)	1,352,269	1,332,167	869,449	2,004,108	1,210,457
資本金 (千円)	2,310,056	2,310,056	2,310,056	2,310,056	2,310,056
発行済株式総数 (千株)	22,274	22,274	22,274	22,274	22,274
純資産額 (千円)	41,973,403	42,845,800	43,621,898	44,338,297	44,798,735
総資産額 (千円)	45,543,405	46,583,874	47,458,694	47,923,869	48,772,935
1株当たり純資産額 (円)	1,930.62	1,963.76	1,996.76	2,043.90	2,062.80
1株当たり配当額 (円)	23.00	24.00	32.00	36.00	37.50
(うち1株当たり中間配当額)	(11.00)	(12.00)	(13.50)	(18.00)	(18.50)
1株当たり当期純利益 (円)	62.32	61.15	39.77	91.92	55.78
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	92.2	92.0	91.9	92.5	91.9
自己資本利益率 (%)	3.2	3.1	2.0	4.5	2.7
株価収益率 (倍)	14.94	12.26	32.49	13.38	23.00
配当性向 (%)	36.9	39.2	80.5	39.2	67.2
従業員数 (人)	209	215	214	205	208
(ほか、平均臨時雇用者数)	(37)	(40)	(43)	(40)	(44)
株主総利回り (%)	78.3	65.6	111.7	109.7	116.9
(比較指標: 配当込みTOPIX)	(95.0)	(85.9)	(122.1)	(124.6)	(131.8)
最高株価 (円)	1,320	1,100	1,380	1,429	1,288
最低株価 (円)	883	660	732	1,161	1,072

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益の算定の基礎となる自己株式数については、「従業員持株会支援信託E S O P」に係る信託口が所有する当社株式を含めております。

3. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第68期の期首から適用しており、第68期以降に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

4. 最高株価及び最低株価は2022年4月4日より東京証券取引所(スタンダード市場)におけるものであり、それ以前は東京証券取引所(市場第二部)におけるものであります。

2【沿革】

年月	概要
1952年9月	大阪市東区（現中央区）瓦町において田中勇吉（当社の初代代表取締役社長）が日東商会を創業し、同市阿倍野区に工場を設置、化学薬品（家具用ワックス）の製造を開始
1954年10月	化学薬品（ワックス類等）の製造及び販売を目的として、日東商会の事業を継承し、大阪市東区（現中央区）瓦町に日東化学株式会社(当社の旧商号)を設立
1958年4月	東京営業所（現東京支店）を新設
1962年4月	「ソフト９９」の名称による自動車用ワックス製品等の製造及び販売を開始
1966年10月	大阪府東大阪市に工場を新設
1972年10月	大阪市東区（現中央区）南新町に本社を新設
1977年6月	大阪府東大阪市に流通センターを新設
1989年9月	兵庫県三田市テクノパークに工場及び流通センターを移転
1993年4月	商号を株式会社ソフト９９コーポレーションに変更
1994年6月	中華人民共和国上海市に自動車用化学製品の製造及び販売を目的として、上海速特９９化工有限公司を設立
1998年1月	プラスチック製容器の企画・販売を目的とする株式会社パナックス(本店所在地 大阪市中央区)の全株式を取得
1999年11月	ISO9001（品質管理・保証の国際規格）を認証取得
1999年11月	アイオン株式会社(本店所在地 大阪市中央区)を発足させ、同社が鐘紡株式会社の化成品事業部門を譲受
1999年12月	株式会社尼崎自動車教習所(本店所在地 兵庫県尼崎市)の全株式を取得
2000年5月	大阪市中央区谷町に本社ビルを新築し、移転
2001年4月	旧東大阪流通センター跡地にて温浴施設「極楽湯」東大阪店をオープン
2001年6月	東京証券取引所（現・(株)東京証券取引所）市場第二部に上場
2001年10月	国際環境管理規格「ISO14001」の認証取得
2002年3月	株式会社尼崎自動車教習所が第一レンタリース株式会社を吸収合併し、商号をアスモ株式会社に変更
2002年9月	旧枚方倉庫跡地にて温浴施設「極楽湯」枚方店をオープン
2003年4月	株式会社ニシモト（現・(株)くらし企画、本店所在地 東京都練馬区）の全株式を取得
2003年7月	株式会社ソフト９９オートリース（本店所在地 大阪市中央区）を連結子会社アスモ株式会社より新設分割
2003年7月	兵庫県尼崎市にて温浴施設「極楽湯」尼崎店をオープン
2003年9月	中橋鍍金塗装株式会社（本店所在地 大阪市鶴見区）の全株式を取得
2005年1月	神戸リサーチパークに研修センター（現R&Dセンター）を新設
2005年3月	東京都千代田区に東京支店を移転
2005年8月	東和自動車株式会社（本店所在地 東京都墨田区）の全株式を取得
2006年1月	株式会社ソフト９９オートリースが商号を株式会社ソフト９９オートサービスに変更
2006年4月	株式会社ソフト９９オートサービス（本店所在地 大阪市中央区）と中橋鍍金塗装株式会社が、株式会社ソフト９９オートサービスを存続会社として吸収合併
2006年4月	株式会社ニシモトが株式会社関西エムディ総研（本店所在地 大阪市中央区）の全株式を取得
2007年4月	株式会社ソフト９９オートサービスと東和自動車株式会社が、株式会社ソフト９９オートサービスを存続会社として吸収合併
2010年4月	株式会社くらし企画と株式会社関西エムディ総研が、株式会社くらし企画を存続会社として合併
2011年10月	株式会社パナックスとアスモ株式会社が、アスモ株式会社を存続会社として吸収合併
2013年5月	東京都江東区に東京支店を移転
2014年7月	アライズ株式会社（本店所在地 大阪市中央区）を設立
2015年1月	株式会社オレンジ・ジャパン（本店所在地 東京都江東区）の全株式を取得
2016年4月	株式会社アンテリア（本店所在地 大阪市中央区）を設立
2018年3月	株式会社ハネロン（本店所在地 大阪府八尾市）の全株式を取得
2020年8月	アズテック株式会社（本社所在地 東京都文京区）の全株式を取得
2022年4月	アスモ株式会社とアライズ株式会社が、アスモ株式会社を存続会社として吸収合併
2022年4月	(株)東京証券取引所の市場区分の見直しにより、市場第二部からスタンダード市場に移行

3【事業の内容】

当社グループは、当社及び当社の連結子会社9社から構成されており、ファインケミカル、ポラスマテリアル、サービス及び不動産関連という4つの事業セグメントに区分しております。

当社グループの事業内容及び当社と関係会社との当該事業に係る位置付けは次のとおりであります。

(1) ファインケミカル

〔事業内容等〕

主として、一般消費者向け及び自動車コーティング施工業者向けに、自動車用ケミカル品の製造・販売を行っております。

主要な製品は、洗車用品（カーワックス等）、自動車用補修・整備用品、その他家庭用品、TPMS（タイヤ空気圧監視装置）、電子機器・ソフトウェアの開発販売などであります。

〔事業に携わる関係会社等〕

当社が主要製品の製造・販売を行うほか、連結子会社のアスモ(株)が当社製品に使用するプラスチック容器の企画販売を行っております。海外では、中国（上海市）において連結子会社の上海速特99化工有限公司が自動車用ケミカル品の企画・販売を行っております。また、連結子会社の(株)オレンジ・ジャパンがTPMSの企画開発販売を、連結子会社の(株)アンテリアが海外自動車用品の輸入販売を、連結子会社の(株)ハネロンが電子機器・ソフトウェアの開発・販売を行っております。

(2) ポラスマテリアル

〔事業内容等〕

主として、工業資材・生活用品向けに、PVA（ポリビニルアルコール）やウレタンなどの多孔質体（ポラスマテリアル）を素材とする化成品の製造・販売、及び病院施設で使用する医療・衛生管理用品の企画・開発・販売を行っております。

PVAやウレタンなどを素材とする主要な製品として吸水・洗浄材、工業用の研磨材、濾過材、医療用吸液材、生活用品などがあります。また、主な医療・衛生管理用品としては薬液塗布用のモップや床汚染防止用シートなどがあります。

〔事業に携わる関係会社等〕

PVAやウレタンなどの素材とする製品においては、連結子会社のアイオン(株)が製造・販売を行っております。また、医療・衛生管理用品においては、連結子会社のアズテック(株)が企画・開発・販売を行っております。

(3) サービス

〔事業内容等〕

主として、自動車整備・鈹金事業、自動車教習事業、生活用品企画販売事業を行っております。

主要なサービスは、自動車整備・鈹金事業においては、自動車の整備・鈹金塗装、自動車のリース・レンタルを行っております。自動車教習事業においては、自動車免許の取得支援、安全運転のためのマナー教育、そして燃費向上のためのエコドライブ講習等を行っております。生活用品企画販売事業においては、主に生活協同組合向けに家庭用品の企画・販売を行っております。

〔事業に携わる関係会社等〕

連結子会社の(株)ソフト99オートサービスが自動車整備・鈹金事業を行い、連結子会社のアスモ(株)が自動車教習事業を行い、連結子会社の(株)くらし企画が生活用品企画販売事業を行っております。

(4) 不動産関連

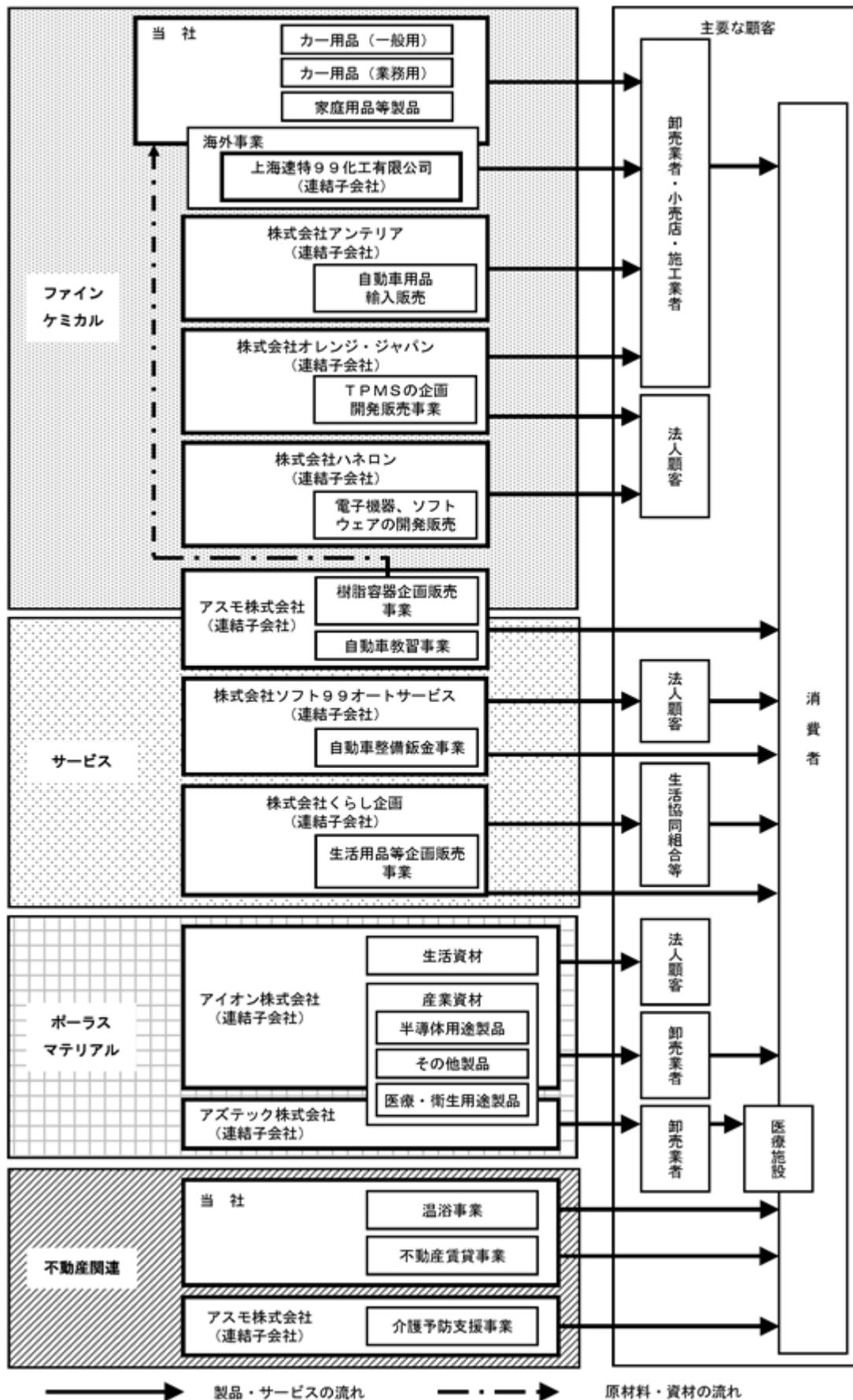
〔事業内容等〕

主として、当社保有の不動産を賃貸する不動産賃貸事業と、当社の保有する不動産の有効活用の一環として、温浴事業及び介護予防支援事業を行っております。

〔事業に携わる関係会社等〕

当社が不動産賃貸事業及び温浴事業を行うほか、連結子会社のアスモ(株)が介護予防支援事業を行っております。

事業系統図によって示すと、次のとおりであります。



4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金	主要な 事業内容	議決権に対す る提出会社の 所有権の割合 (%)	関係内容
(連結子会社) アイオン(株) (注)2(注)3	大阪市中央区	(百万円) 482	ポーラス マテリアル	100.0	当社から不動産の 賃貸あり 役員の兼任あり
アスモ(株) (注)2	大阪市中央区	(百万円) 40	ファイン ケミカル サービス	100.0	当社からの資金貸 付と不動産賃貸あ り 当社製品に使用す る容器の仕入あり 役員の兼任あり
上海速特99化工有限公司 (注)2	中華人民共和国 上海市	(千米ドル) 5,650	ファイン ケミカル	100.0	役員の兼任あり
(株)くらし企画 (注)2	東京都江東区	(百万円) 50	サービス	100.0	当社から製品の販 売と不動産の賃貸 あり 役員の兼任あり
(株)ソフト99オートサービス (注)2	大阪市中央区	(百万円) 50	サービス	100.0	当社から資金貸付 と不動産の賃貸あ り 当社から製品の販 売あり 役員の兼任あり
(株)オレンジ・ジャパン	東京都江東区	(百万円) 30	ファイン ケミカル	100.0	当社から資金貸付 と不動産の賃貸あ り 当社が販売する商 品の仕入れあり 役員の兼任あり
(株)アンテリア	大阪市中央区	(百万円) 10	ファイン ケミカル	100.0	当社から不動産の 賃貸あり
(株)ハネロン	大阪府八尾市	(百万円) 33	ファイン ケミカル	100.0	当社から資金貸付 あり 役員の兼任あり
アズテック(株)	東京都千代田区	(百万円) 10	ポーラス マテリアル	100.0	当社から資金貸付 と不動産の賃貸あ り 役員の兼任あり

(注)1. 主要な事業の内容欄には、セグメントの名称を記載しております。

2. アイオン(株)、アスモ(株)、上海速特99化工有限公司、(株)くらし企画、(株)ソフト99オートサービスの5社は、特定子会社に該当しております。

3. アイオン(株)については、連結売上高に占める同社の売上高が10%を超えております。なお、アイオン(株)の主要な損益情報等は、売上高7,552百万円、経常利益1,107百万円、当期純利益853百万円、純資産額8,089百万円、総資産額10,095百万円です。

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2023年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
ファインケミカル	254 (44)
ポラスマテリアル	266 (15)
サービス	290 (46)
不動産関連	27 (245)
合計	837 (350)

(注) 従業員数は、就業人員であり、臨時雇用者数は年間の平均人員を()内に外数で記載しております。

(2) 提出会社の状況

2023年3月31日現在

従業員数	平均年齢	平均勤続年数	平均年間給与
208 (44)人	43歳9ヶ月	17年3ヶ月	6,781,432円

- (注) 1. 従業員数は、就業人員(当社から関係会社への出向者4人を除いております。)であり、臨時雇用者数は年間の平均人員を()内に外数で記載しております。
2. 平均年間給与(税込)は、2022年4月1日から2023年3月31日までのものであり、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
3. 上記の従業員は、全員がファインケミカルセグメントに所属しております。

(3) 労働組合の状況

当社グループには、下記の子会社2社にそれぞれ労働組合があり、その組合名、所属、加入人員数等は、以下のとおりであります。

なお、両組合ともに労使関係は円満であり、特記すべき事項はありません。

2023年3月31日現在

子会社名	アイオン(株)	アスモ(株)
組合名	アイオン労働組合	尼崎自動車教習所労働組合
所属する連合団体等	U A ゼンセン	無所属
組合加入人員数(人)	186	53

(4) 管理職に占める女性労働者の割合、男性労働者の育児休業取得率及び労働者の男女の賃金の差異
提出会社

当事業年度					補足説明
管理職に占める女性労働者の割合(%) (注)1.	男性労働者の育児休業取得率(%) (注)2. (注)3.	労働者の男女の賃金の差異(%) (注)1.(注)4.			
		全労働者	うち正規雇用労働者	うち非正規雇用労働者	
3.8	0.0	52.3	74.6	55.6	賃金差異については、年度内での入退職者は計算対象から除いております。

(注)1. 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)の規定に基づき算出したものです。

- 「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定に基づき、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律施行規則」(平成3年労働省令第25号)第71条の4第1号における育児休業等の取得割合を算出したものであります。
- 男性労働者の育児休業取得率は、育児休業等の取得割合(当事業年度において雇用する男性労働者のうち育児休業等を取得した者の数/当事業年度において雇用する男性労働者のうち配偶者が出産した者の数)により算出しております。
- 労働者の男女の賃金の差異は、女性労働者の平均年間賃金÷男性労働者の平均年間賃金×100%として算出しております。

国内連結子会社

当事業年度						補足説明
名称	管理職に占める女性労働者の割合(%) (注)1.	男性労働者の育児休業取得率(%) (注)2. (注)3.	労働者の男女の賃金の差異(%) (注)1.(注)4.			
			全労働者	うち正規雇用労働者	うち非正規雇用労働者	
アイオン(株)	5.6	100.0	71.2	72.2	113.5	賃金差異については、年度内での入退職者は計算対象から除いております。
アスモ(株)	0.0	20.0	37.6	58.1	78.9	
(株)ソフト99オートサービス	0.0	25.0	76.9	76.7	-	
(株)くらし企画	12.5	0.0	86.5	86.5	-	
(株)オレンジ・ジャパン	0.0	0.0	57.5	57.5	-	
(株)ハネロン	0.0	0.0	78.2	78.2	-	
アズテック(株)	0.0	0.0	69.9	69.9	-	

(注)1. 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)の規定に基づき算出したものです。

- 「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定に基づき、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律施行規則」(平成3年労働省令第25号)第71条の4第1号における育児休業等の取得割合を算出したものであります。
- 男性労働者の育児休業取得率は、育児休業等の取得割合(当事業年度において雇用する男性労働者のうち育児休業等を取得した者の数/当事業年度において雇用する男性労働者のうち配偶者が出産した者の数)により算出しております。
- 労働者の男女の賃金の差異は、女性労働者の平均年間賃金÷男性労働者の平均年間賃金×100%として算出しております。
- 海外子会社である上海速特99化工有限公司については、記載内容から除いております。
- (株)アンテリアは従業員がいないため記載内容から除いております。

提出会社及び国内連結会社

当事業年度		労働者の男女の賃金の差異(%) (注)1.			補足説明
管理職に占める女性労働者の割合(%) (注)1.	男性労働者の育児休業取得率(%) (注)2.	全労働者	うち正規雇用労働者	うち非正規雇用労働者	

賃金差異については、年度内での入退職者は計算対象から除いております。

(注)1. 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)の規定に基づき算出したものであります。

2. 「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定に基づき、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律施行規則」(平成3年労働省令第25号)第71条の4第1号における育児休業等の取得割合を算出したものであります。
3. 男性労働者の育児休業取得率は、育児休業等の取得割合(当事業年度において雇用する男性労働者のうち育児休業等を取得した者の数/当事業年度において雇用する男性労働者のうち配偶者が出産した者の数)により算出しています。
4. 労働者の男女の賃金の差異は、女性労働者の平均年間賃金÷男性労働者の平均年間賃金×100%で算出しております。
5. 海外子会社である上海速特99化工有限公司については、記載内容から除いております。
6. (株)アンテリアは従業員がいないため記載内容から除いております。

第2【事業の状況】

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

当社グループの経営方針、経営環境及び対処すべき課題等については以下のとおりです。なお、文中における将来に関する事項は、当社グループが当連結会計年度末現在において判断したものであり、将来において様々な要因により、実際の結果と異なる可能性があります。

(1) グループ経営理念

当社グループは、創業以来掲げてきた「生活文化創造企業」をグループ共通の経営理念とし、グループ全ての事業において生活文化創造＝未来の『あたりまえ』を発見するという共通理念の下、事業運営に取り組んでおります。

また、この理念を経営戦略に反映させるため、3年ごとに中期経営計画を策定し、その時々々の経営環境や課題を鑑みて計画ごとにテーマ並びに経営ビジョンとビジョン実現に向けた基本方針を設定しております。

(2) 経営戦略等

当社グループは2023年3月まで第6次中期経営計画「Overtake!!」を掲げ、これまで進めてきた各セグメントの新しい取組みに加え、視野を更に広げることで幅広い分野の顧客の消費意識の変化を先取りした新しい価値の創出を進め、社会の要請に応えることを目指して営業活動に取り組んでまいりました。

そして、2023年4月から第7次中期経営計画「Evolve!!」を策定いたしました。当社グループが取り巻く事業環境は現在進行形でめまぐるしく変化していると捉え、新たに発生する社会課題の解決のために「進化する」ことで社会課題の解決に資する価値を提供する存在であり続けることを目指しております。

(3) 当社グループを取り巻く事業環境と優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

第6次中期経営計画の策定時に想定していた各市場における事業環境の変化は、コロナ禍の影響により当初想定していた事業環境とは大きく異なるものとなりました。当社グループにおいては、各事業で計画通りの施策ではなく状況に応じた施策に切り替え、一部事業においてはマイナスの影響を受けましたが、グループ全体の業績は感染予防や感染拡大防止の意識の高まりから、当社グループの製品やサービスの需要が拡大し、伸長しました。

ワクチン接種や行動制限の解除等が進み社会が正常化しつつある中で、インターネット通販市場の拡大、テレワーク・オンライン会議の一般化や、郊外型の住宅環境と安全な移動手段としてのマイカー保有等、コロナ禍での外出自粛から始まった新しい生活様式については、今後も恒常的に残ると想定されます。

このような生活様式の変化は、足元の当社既存製品の需要掘り起こしに寄与するだけでなく、今後ユーザーの更なる価値観の変化と新たな市場を生み出す源泉にもなると考えております。特に自動車分野においては、改めてその価値が見直されることとなったマイカー保有とサステナビリティの両立の観点から、自動車メンテナンスの需要が増え、また、産業分野や生活分野においても、コロナ禍によって医療・衛生分野に向けた関心が高まっていることから、新しい提案を行う機会が増加すると考えております。

また、当社グループを取り巻く環境は、自動車保有形態の変化、カーケア関連製品の購買に関するユーザーの意識変化や、ハイテク関連分野の競争激化といった市場の変化が着実に進行している状況です。近年はこれらに加えて「所有から利用」「時間に対する価値意識」等、ユーザーの消費意識の変化が顕著に表れております。

さらにSDGsに代表されるサステナビリティへの社会的な取り組みの進展や、デジタルトランスフォーメーションの進行・浸透により、これまで不便だったことがデジタル技術を用いて劇的に改善される可能性が高まっています。このようなユーザーや市場の変化は、当社グループにとって新たなビジネスチャンスが生まれてくる状況であると認識しております。

当社グループを取り巻く事業環境の変化に対応するためには、作業の効率化や時短、また付加価値を高めるために「デジタルの活用」を推進することは必要不可欠であると認識しております。倍速消費に代表されるようなデジタル化による「時短＝善」、また「時間を費やす＝悪」といった捉え方が広がりつつある中で、「心揺さぶられるアナログ的価値を提供すること」が重要であり、その価値を提供することができれば「時間を費やす＝善」にも変換する流れを創ることができると考えております。

当社グループはデジタルによる製品・サービスの付加価値向上と併せてデジタルによる効率化によってもたらされる時間を活用し、「アナログ的価値」を提供することで利益の成長を推進し、経営効率の改善を伴う事業規模拡大の実現を目指します。事業運営上の効率性指標としては、第7次中期経営計画においても第6次中期経営計画より採用しているROICを継続し、ROICが資本コストを上回ることを目指します。その次のステップとして新分野・新事業に向けた投資による業容の拡大を指向しております。

・各セグメントにおける主要施策について

ファインケミカル

自動車分野では、消費者にカーライフの「キレイ」「安全・安心・快適」「修復」を届ける活動を推進していきます。

国内向け販売におきましては、サービスによる価値提供の強化をしつつ、業務用コーティング施策と連動した製品開発に努めてまいります。またWEBを經由した店舗との仕組み構築や集客施策の実施の強化や、新たな市場に対して意識を向けて当社製品が届いていない領域への進出に取り組んでまいります。

業務用製品の販売におきましては、施工業者様に対して、「磨き」を軸としたメニュー展開の推進や新たな得意先へのアプローチに力を入れるだけでなく、オンラインを活用することで集客システムの構築や海外G'z x ショップの研修強化に取り組んでまいります。また、自動車分野以外にもビルメンテナンスやクリーニングといった「キレイ」を求めるあらゆる業界へのアプローチの継続とコロナ禍以降で需要が高まっている抗菌・抗ウイルス効果を付与した衛生管理製品の提案や、表面改質技術を活用した印刷・接着業界に向けた問題解決提案を行うことにより、新たな事業領域の拡張につなげてまいります。

海外向け販売におきましては、SNSを積極的に活用して日本の洗車習慣を世界へ発信し、海外専売品のラインナップの強化や販売増加に取り組んでまいります。また、今まで取引がなかったアフリカや米国などの新たな市場に進出するため、現地生産も視野に入れて化学規制に対する調査や販路の確立に努めてまいります。

家庭用品販売においては、主力であるメガネケア製品での新たな販路開拓や、スポーツ用品向け等の販売カテゴリーでの売上拡大をはじめ、新たに業務用・眼科ルート開拓を軸にメガネケア習慣化推進に努めてまいります。

TPMS（タイヤ空気圧監視装置）の企画・開発・販売におきましては、既存の得意先様へのメンテナンスサービスの推進に加え、TPMSで得られる空気圧データを活用した運転管理サービスの推進により、提供価値の拡充に努めてまいります。

電子機器・ソフトウェア開発販売におきましては、従来取り組んできたインフラ設備に対する開発販売の知見を活かし、消費者向け製品の開発に積極的に取り組んでまいります。

ポラスマテリアル

産業資材分野では、半導体・液晶・HDDなどのハイテク産業に向けた製造装置の消耗部材販売において更なる清浄度や作業性、耐久性等の技術向上に努め、シェアの維持・拡大を図ります。また、次の収益の柱となる用途の創造を目指し、環境・健康などの分野において、新たな製品開発と顧客の開拓に取り組んでまいります。特に医療分野においては、これを重点的な拡大分野と考えており、これまでの医療製品への部材提供から医療関連製品の自社開発への転換を目指して研究開発を進めてまいります。また、アズテック（株）による病院施設向け医療・衛生管理用品の企画・開発・販売事業の開始に併せ、医療現場ニーズに即した製品開発ノウハウの獲得による更なる開発力と販路の強化を進めてまいります。

生活資材分野では、国内向けには日本製高品質素材訴求によって競合との差別化を図るとともに、WEBを活用したアプローチによる販売拡大に取り組みつつ、自社ブランドの新たな開発に努めてまいります。また、海外向けには、スポーツ用途展開による新市場の開拓や、グループリソースを有効活用した新規市場開拓に取り組んでまいります。

また、更なる高品質製品の生産に向けて、生産体制の見直しや設備投資も進めております。

サービス・不動産関連

自動車整備・钣金事業においては、自動車の更なるハイテク化を見据えたエーミング技術対応を強化することで入庫車両数の確保を進めるとともに、輸入車メーカー認証の取得による対応車両の拡充を進めてまいります。また、美装向けのサービスの推進に合わせ、钣金・美装における直需を強化するため、エンドユーザー向けのサービスの推進に努める他、オートディテイリングビジネスの拡大に向けて、国内・海外両面の販売展開を進めてまいります。

自動車教習事業においては、兵庫県下でトップクラスの入所者数を維持しつつ、高齢者講習ビジネスの強化やドローンライセンスの強化に加え、教習所指導員のノウハウを活用した安全運転管理システムの商品開発を進めることで、新たな収益源の構築を目指します。

生活用品企画開発事業においては、生協向けの取引先や提案数の拡大に加え、ECサイトの再構築と自社による企画製品を強化することにより、これまでリーチできていなかった顧客層に向けて提案を行えるプラットフォームの確立を目指します。

不動産関連においては、新たに開始した倉庫サービスビジネスの推進に加え、介護予防支援事業でリハビリ特化施設としての認知を高めることで、他社との差別化や新規入所者獲得に努め、保有物件の更なる活用に取り組んでまいります。

・経営効率の改善について

当社グループは、経営効率改善のため、既存事業の運営効率向上と新規事業への投資による業容拡大の両面が必要であると認識しております。

第7次中期経営計画における既存事業の運営効率指標としては、直接事業に供している資産から得られる利益率（投下資本利益率：ROI C）が資本コスト（概ね5.5%～6.0%の水準）を継続的に上回ることを目指し、その次のステップとして新分野・新事業に向けた投資による業容の拡大を指向しております。

当社グループのROI Cの実績推移は以下のとおりです。

	第6次中期経営計画	第7次中期経営計画	
	2023年 3月期	2024年 3月期	2026年 3月期
連結営業利益（百万円）	3,256	3,270	3,780
連結経常利益（百万円）	3,440	3,450	3,960
親会社株主に帰属する 当期純利益（百万円）	2,063	2,400	2,770
純資産（百万円）	52,772	54,100	57,100
総資産（百万円）	60,377	61,700	64,700
事業投下資本（百万円）	31,997	32,200	32,700
ROI C（%）	7.1	7.1	8.1
ROE（%） （参考）	4.0	4.4	4.9
ROA（%） （参考）	5.7	5.6	6.1

ROI C算定に使用される営業利益は税引き後の数値となります。なお、税率は30%で算定しております。

2【サステナビリティに関する考え方及び取組】

当社グループはサステナビリティに対する方針として、2021年11月にソフト99グループ行動憲章を改定し、「省資源化による炭素源の削減や化学物質の適切な使用を推進することで、循環型社会の形成への貢献する」と新たに明示いたしました。従前より持続可能性をめぐる様々な課題への対応については、企業価値向上のための重要な経営課題の1つであると認識しており、日々事業と社会の持続可能性を高める取組みを進めております。

当社グループのサステナビリティに関する考え方及び取組みは、次のとおりであります。なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) サステナビリティ

(1) ガバナンス

当社グループは、気候関連のリスクと機会について代表取締役社長や各管掌部門の取締役が参加する会議で協議・特定し、重要事項については取締役会で情報を共有することにより、取締役会による監視体制は取れております。当社の代表取締役社長は、ISO 14001に則った環境マネジメントシステムを活用することでソフト99コーポレーションの環境活動を統括しております。また、グループ各社においても、各種会議への参加により評価、管理に直接関与することで、グループ全体としての環境活動を統括しております。

(2) 戦略

当社グループでは、車のお手入れ製品や半導体向け製品など、化学由来の製品を製造販売する事業が業績の大部分を占めております。そのため、従来から化学製品の品質や安全面に対する意識を高めて取り組んでまいりました。また、経営方針や経営戦略などに短期的・中期的・長期的に影響を与える可能性がある気候変動をはじめとした様々な事柄に関するリスクや機会にも対処するため、ソフト99グループでは行動憲章において持続可能性への取組みとして方針を掲げ、代表取締役や各管掌部門の取締役が参加する会議で議論を重ね、日々の企業活動でも取組みを強化しております。

(3) リスク管理

当社のリスク管理体制については、毎月開催される取締役会の中で各担当者より事業運営を把握するための定性情報及びこれに付随する定量情報を基に、事業運営や主要なリスクに関する報告がされており、経営陣が適宜状況を把握・評価・管理する体制を構築しております。

特に環境への取組みにおける所轄部門として、管理部門がその主要な機能を有しております。管理部門が関係部門と連携を図りつつ、各事業部における運用状況のモニタリングや必要に応じて取締役会で経営陣に対して報告することで、気候変動に関するリスク及び機会について適切に把握・評価・管理しております。

(4) 指標及び目標

事業活動に起因するGHG排出量については、Scope 1及びScope 2主要な算定対象として現状把握に努めてまいります。

また、それ以外の場面で発生するGHG排出量については、Scope 3を算定対象とし、当社グループの特性に合わせた情報整理と集計を進めることで現状把握に努めてまいります。

(2) 人的資本

持続的な事業運営の担保については、人口減少社会を踏まえ、若年層の人員確保やスキルアップ、単純・定型業務の機械化推進による人にしかできない仕事への注力などの課題を認識し、対処しております。

そして今後の事業拡大、特に海外展開の拡大を見据えた上で、これに必要なグローバル人材の確保育成を行うことは重要であり、従来よりも幅広い視点をもった採用・教育活動に取り組んでまいります。

(1) 戦略

当社グループでは、人材の成長が企業の成長・発展の礎となると認識しており、新たな価値の創出や、提案を通じて、従業員が成長できる環境づくりに努めております。加えて、従業員の知識と技能の双方を高めることで、当社グループ全体として、効率的に成果を生み出す組織となるべく、労働環境の整備を進めるための取組みを実施しております。

業務を通じて得た各自の経験・知見を最大限に活用し、必要に応じて外部研修も活用することで、知識の醸成を促します。また、個々の人財の適正や成長性を見極めつつ、常に新たな課題に挑戦する機会を与えることで、自律的な人財への成長を促します。経営層や管理職の育成については、出身組織部門以外の業務や、関係会社の事業運営への参画の機会を与えること、また、外部研修を活用することで、全社的な視野で業務執行を担える人財への成長を促進します。

そして、持続的な事業運営の担保のために、社内の多様性確保も重要な経営課題の一つとして認識しております。性別や国籍などの属性条件から生じる様々な視点や価値観を相互に理解、尊重しながら、公平かつ公正な採用活動や人事評価並びに人財育成を行っております。また、中核人財の登用等における多様性確保状況については、証券取引所に提出しておりますコーポレート・ガバナンスに関する報告書において開示いたします。

詳細につきましては、「当社ポリシー内「II.ステークホルダーとの協調(4)企業価値向上 . 企業価値を担う人的資本への投資」並びに「II.ステークホルダーとの協調(5)持続可能性 . 社内の多様性確保」及び「グループ行動憲章細目3-(1)、3-(2)

<https://www.soft99.co.jp/corporate/profile/philosophy/doc/constitution.pdf>」)をご参照ください。

(2) 指標及び目標

当社グループには多様な考え方やバックグラウンドを持つ人財がおり、公平かつ公正な採用活動や人事評価、育成に取り組んでおります。各従業員が最大限に能力を発揮できることを最重要項目として捉え、あえて目標とする指標は設けず状況に対して適切な対応ができる環境整備を進めてまいります。

(各従業員数(人)) 2023年3月31日現在

連結従業員数	837
うち、女性従業員	224
うち、外国人従業員	19
うち、中途採用従業員	251
うち、障害者従業員	11

3【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、有価証券報告書提出日現在において、当社グループが判断したものであります。

(1) 特定の市場への依存度について

当社グループは、「自動車」に関わる事業の売上構成比が高く、自動車関連産業の市況や制度の変更により業績に影響が出る可能性があります。ファインケミカル事業における一般消費者向け自動車ケミカル用品の一部の製品については、市場内でのシェアが高いことから、市場の縮小による業績への影響を受けやすく、売上高及び利益において減少する懸念があります。

また、自動車販売時に施工されるコーティング剤等の業務用製品は、自動車ディーラーへの販売依存度が高く、自動車販売の増減に影響されることから、売上高や利益において極端に浮沈する可能性があります。

サービス事業における自動車整備钣金事業についても同様に、自動車関連産業の動向及び市況の影響を受け、売上高や利益において下降する懸念があります。

ポーラスマテリアル事業において、半導体業界向けの洗浄材及び研磨材の製造販売の依存度が高く、また、市場シェアも高いことから半導体の景気動向による業績への影響を受けやすく、売上高及び利益において浮沈する可能性があります。

また、半導体業界は製品技術の進歩が速く、業界を構成する企業の合併等の業界再編・市場再編が頻繁に行われます。これらの技術の切り替えや企業再編のタイミングにおいて需給調整が行われることにより、当社の売上高や利益に影響を与える可能性があります。加えて、国内外において性能面及び価格面での他社との競争が激化しており、競合品の台頭により主要得意先の販売が下落し、売上高及び利益において減少する懸念があります。

(2) 石油加工品の原材料への依存度について

当社グループが提供する製品は、原材料及び容器等に合成樹脂や溶剤等を多く使用しており、石油加工品への依存度が高くなっております。このような事業構造のため、災害や国際情勢の悪化等により原材料の調達が不可能になった場合、中長期にわたって一部の製品供給が困難になる可能性があります。また、原油価格の上昇により原材料の調達コストが上昇し、売上高や利益面において下降する懸念があります。これに対して当社グループは、より付加価値の高い製品提供による利益の維持確保や、詰め替えタイプ・濃縮タイプ等の省パッケージ製品の開発によるトータルコストの低減に取り組んでおります。

(3) 化学製品の法規制について

当社グループの製品及び製造過程において、化学物質を多く使用していることもあり、化学品規制に関する法律が変更された際に、従来通りの製造、販売活動を継続できなくなる懸念があります。当社グループでは、海外を含む化学品規制に関する法律改定の最新情報を常に更新し、更に製品の配合変更を適宜実施することで、市場に安定して製品を供給できる体制を構築しておりますが、法令の公布から施行までの期間が短い場合は、その製品の出荷を一時的に停止させる措置をとることが考えられます。

(4) 仕入先企業の営業方針の転換に伴う影響について

当社グループは、多くの仕入先から原料や製品を仕入れ、それを加工・販売することで円滑な事業活動を継続しておりますが、仕入先において化学品の規制強化対応のための製品廃番や、経営合理化のための事業停止による品番統合・廃番などが発生する可能性があります。その結果、競合他社との仕入競争が激化し、仕入価格の高騰や、潤沢な原材料の確保が行えないことによる生産・販売計画の遅延などといった影響が出る懸念があります。

(5) 製造物責任について

当社グループが提供する製品・サービスの欠陥により、人又は財産に被害が生じるリスクがあります。製造物責任賠償やリコール等が発生した場合は、当社グループのブランド価値低下を招くとともに、多額の費用負担が発生する可能性があります。これに対して、当社グループでは、ISOに準拠した開発・生産体制の構築を進め、製品・サービスの品質維持に取り組んでおります。

(6) 季節商材の返品による業績への影響について

当社グループは、ファインケミカル事業において、冬季商材であるタイヤチェーンの販売を行っております。この製品は、積雪量の増減といった天候の変動により消費者の購買行動が左右されますが、天候を事前に予測し、生産計画を立てることは困難であるため、返品による在庫の増加や、製品が欠品する懸念があります。

(7) 海外事業について

当社グループは、ファインケミカル事業において、拡大する海外市場への展開を進めており、展開する国や地域において政治的・経済的・社会的不安定要素や、法律の改正や為替相場の変動、知的財産に関する問題、テロ・紛争等による社会的混乱等により販売面で影響を受け、売上高や利益面において低下する懸念があります。

またポーラスマテリアル事業において、海外の売上構成比が高く、特に、海外向け半導体関連製品については、米国・欧州・中国の政治経済状況の影響を受ける可能性が高くなっております。これら海外販売については、仕向け地の増加拡大により、地域リスクの低減・平準化を目指しております。

(8) 洪水・震災等の自然災害及び感染症の流行に伴うリスクについて

当社グループは、製造業の占める売上比率が高く、複数の製造工場を保持しておりますが、各種自然災害の発生や感染症の流行などの影響により、当社グループの製造工場における燃料供給の不足、インフラの障害、操業の中断などが発生し、製造工程の一部ないし全てを停止させることになる恐れがあります。BCP対策として、製品在庫について外部倉庫を含む全国いくつかの倉庫に分散して預けておくことで、急な災害時にも欠品を起こさない体制づくりを行っておりますが、これらの製造工場における被害が想定を上回る水準で被害を受けたことにより、営業再開に想定以上の時間を要した場合、業績に大きく影響を与える可能性があります。

また、当社グループは原料や資材の調達網を世界に広げていることから、各種の自然災害や感染症の流行によって流通網が寸断され、流通・製造・その他営業活動に関わる資源が不足することや、気候変動に伴い植生が変化することで天然資源が安定的に供給されなくなるリスク等があります。事前の情報収集や、適切な在庫の確保に努めてまいりますが、調達面では世界的に広がった調達網が機能しなくなることによる製造の停止や製品供給停止により業績に大きく影響を与える可能性があります。重症化リスクの高く、治療方法が確立されていない感染症が流行するなどした場合、各事業への影響度合いに違いはあるものの、収束までの期間が長引くと業績に大きく影響を与える可能性があります。

4【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

(1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」といいます。）の状況の概要は次のとおりであります。

財政状態について

当連結会計年度末における総資産は、60,377百万円（前連結会計年度末は59,231百万円）となり、1,146百万円増加いたしました。これは主に、棚卸資産が376百万円増加したことに加え、ポーラスマテリアルの新工場完成により建設仮勘定が863百万円減少し、建物及び構築物が1,570百万円増加したこと、ソフトウェア等の無形固定資産が188百万円増加したこと、有価証券及び投資有価証券が60百万円減少したこと、のれんが485百万円減少したことなどによるものです。

負債の残高は、7,604百万円（前連結会計年度末は7,839百万円）となり、234百万円減少いたしました。これは主に、ファインケミカルにおいて海外への販売が好調であったことで支払手形及び買掛金が204百万円増加したことや、「従業員持株会支援信託E S P」の開始に伴い長期借入金が増加した一方で、設備未払金の支払に伴い、未払金及び未払費用が402百万円減少したことや、未払法人税等で191百万円減少したこと、役員退職慰労引当金87百万円減少などによるものです。

純資産の残高は、52,772百万円（前連結会計年度末は51,391百万円）となり、1,380百万円増加いたしました。これは主に、利益剰余金が増加したことなどによるものです。

経営成績の状況について

当連結会計年度における我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症に起因する活動制限が緩和されたことで、経済活動の正常化が進んでおります。しかしながら不安定な国際情勢によるエネルギーや原材料価格の上昇、また継続的な円安などに起因する物価高が個人消費を下押しするなど、依然として先行きの不透明感は高まっております。

このような経営環境において、当社グループは「生活文化創造企業」の企業理念の下、コロナ禍によって新たに発生した社会的ニーズを含めた幅広い社会課題の解決を事業機会と捉え、他にない製品やサービスの開発と事業化に努めてまいりました。その結果、当連結会計年度の経営成績は、売上高30,170百万円（前年同期比6.1%増）、営業利益3,256百万円（同13.4%減）、経常利益3,440百万円（同13.2%減）となり、親会社株主に帰属する当期純利益は、2,063百万円（同25.1%減）となりました。

(ファインケミカル)

自動車販売において、新車販売は、下期以降に半導体の搭載量が少ない車両や普通乗用車を中心に生産が回復したことで、前期を上回りました。中古車販売は、新車販売の回復基調により、需給のギャップは縮小しつつありますが、通年では販売車両の不足により前期を下回りました。

国内の小売業界においては、ホームセンターなどの量販店では通年で季節商材を中心に販売が堅調に推移したものの、来店客数が減少傾向であることに加え、コストプッシュによる物価の上昇により生活防衛的な消費にシフトしていることで販売が減少しました。

カー用品の専門店では、来店客数が減少傾向にあるものの、既存車のメンテナンス需要の高まりを背景にタイヤやオイル製品の販売やサービスが好調に推移しました。

a. 一般消費者向け販売（自動車分野）

ボディケア製品は、レジャーの活発化によって巣ごもり消費需要が落ち着き、車のお手入れ機会の減少したことで販売が低調に推移し、前期を下回りました。

ガラスケア製品は、ワイパーでは既存の得意先において売り場の獲得が進んだことや、メンテナンス需要の高まりによって販売が好調に推移しました。しかし撥水剤では、車のお手入れ機会の減少に伴い販売が低調に推移した結果、ガラスケア全体では前期を下回りました。

リペア製品は、既存の得意先において売り場の獲得が進んだものの、車のお手入れ機会の減少に伴い販売が低調に推移したことで前期を下回りました。

一般消費者向け販売全体では、巣ごもり消費需要による特需があった前期を下回る結果となりました。

b. 業務用製品販売（自動車分野・産業分野）

新車向け製品販売は、下期以降、普通乗用車を中心に新車販売が回復傾向にあることや、高価格帯である高機能製品の販売構成比が上がったことで、E製品や当社ブランドの業務用コーティング販売は好調に推移いたしました。その結果、新車向け販売製品は前期を上回りました。

また、第4四半期以降で中古車市場の流通量は回復傾向にあるものの、通年では中古車流通量が前期を下回っております。そのような中で中古車向け製品販売は、当社ブランドの業務用コーティング剤の価格改定実施や高機能・高価格帯の製品を使った施工が増えたことで単価が上がり、業務用製品販売全体では前期を上回りました。

c. 家庭用製品販売（生活分野）

主力のメガネケア製品では、コロナ禍初期では除菌関連製品の需要増加に伴い「メガネのシャンプー」の新規顧客獲得につながり、外出機会が増加した今期は洗浄ニーズが高まったことで詰替え用製品のリピートが好調に推移しました。

一方、くもり止め製品では、Cと連動した店頭でのアプローチ施策を更に強化して進めたことにより、風邪対策企画以降の店頭販売の落ち込み改善は行えたものの、需要の一巡によるマスク関連製品などの企画の追加導入減少を補うまでには至らず前期を下回りました。

OEM製品においても、くもり止め製品の需要が落ち着いたことで前期を下回り、家庭用製品販売全体では前期を下回りました。

d. 海外向け販売（自動車分野）

中国では、国内での対コロナ政策の終了に伴い、一時的に感染者数が増加したものの、外食や旅行などのレジャーや販売動向は回復基調にあります。そのような中で販路別の販売促進活動を強化したことでガラスケア製品を中心に好調に推移し、前期を上回りました。

中国を除く東アジアでは、台湾においては、前期に引き続きSNSを活用したプロモーションの実施や、量販店向けの企画が成功したことで販売が好調に推移しました。また、韓国においては、今期より上市した化学品規制に対応した処方ボディケア製品「レインドロップ」の売上が好調だったことやガラスケア製品の販売も好調に推移したことで、東アジア全体でも前期を上回りました。

東南アジアでは、ミャンマーやベトナムへの出荷が増加したことや、EC販売を強化し始めたマレーシアやシンガポールでの出荷が引き続き好調だったことにより、東南アジア全体では前期を上回りました。

ロシアでは、ウクライナ侵攻の継続により当社製品の出荷は減少しました。

欧州エリアでは、ウクライナ侵攻に起因する物流不安から景気が減速し、一部の国への出荷が落ち込んだことで前期を下回りました。

その他エリアでは、主要仕向け地であるブラジルにおいて展示会への出展など新たなアプローチを実施しつつ、現地語版製品の販売拡大や業務用関連製品の新規開拓が進み、前期を上回りました。

海外向け販売全体では、欧州エリア等での販売減少をアジア圏などの販売増加でカバーしたことにより、前期を上回る結果となりました。

e. TPMSの企画開発販売（自動車分野）

下期以降はOEM製品の出荷が進んだことで前期と同水準で推移したものの、一部トラックメーカーの出荷停止に伴う新車販売向け製品の出荷の落ち込みをカバーしきれず、前期を下回りました。

f. 電子機器・ソフトウェア開発販売（産業分野）

3Gの停波に伴う4Gへの通信規格切り替え需要や新規案件の受注は好調に推移しております。また、前期は製品を構成する半導体関連部材の供給が滞っていた影響から、製造・出荷を見合わせておりました。下期以降は部材の入荷状況が改善したことで、前期を上回りました。

これらの結果、当連結会計年度のファインケミカル事業の売上高は、新車販売低迷に伴うTPMSの企画開発販売の落ち込みや、コロナ禍から経済社会活動の正常化が進んだことで、一般消費者向け販売の巣ごもり消費需要や家庭用製品販売に落ち着きが見られたものの、業務用製品販売や海外向け販売、電子機器・ソフトウェア開発販売が好調に推移したことで、売上高は14,738百万円（同4.5%増）となりました。また、営業利益は原材料や光熱費高騰の影響に加え、販売ミックスの変化により原価率が上昇したことで、1,724百万円（同22.0%減）となりました。

(ポーラスマテリアル)

a．産業資材部門（産業分野）

半導体市場は、5GやIoTの進展に伴い潜在的な需要は継続するものの、電子デバイスの需要が一巡したことや、主にメモリ用途の半導体において供給過多が発生し生産調整されるなど、各種半導体の需要状況にも変化が見え始めております。コロナ禍で著しく高かった需要が落ち着き始め、今後の状況が予測しづらい状況です。

国内向け販売は、主力の半導体製造用途分野で一部在庫調整が発生したものの、二次電池などに使用される銅箔用途で出荷を伸ばしたことで前期を上回りました。また、医療用途向け販売は、医療用フィルターや手術向け製品、器械類等の出荷が好調に推移しました。その他の販売については、工作機械用の空圧機器向けやプリンター用途、環境関連製品が好調に推移したことで、国内向け販売は前期を上回りました。

海外向け販売では、米国の輸出規制等の影響は限定的で、コロナ禍以前と比べると高い水準で半導体需要が継続し、大手以外の半導体メーカーにおいても出荷が増加しております。医療用途においても、吸液材等の用途で他社品からの切替えが進んだことで前期を上回る結果となり、産業資材部門全体でも前期を上回りました。

b．生活資材部門（自動車分野・生活分野）

国内向け販売は、自動車用製品は小売店でのセルアウトが不調だったものの、家庭用製品がメディアに取り上げられ販売が好調に推移したこと、スポーツ向け製品の需要がコロナ禍以前の水準に回復したことで、前期を上回りました。

海外向け販売は、主力仕向け地である米国において、急激なインフレによる生活必需品以外の消費停滞の影響で販売が減少したものの、コロナ禍からの回復基調にあるインドネシアや韓国への出荷が好調だったことにより前期を上回り、生活資材部門全体においても前期を上回りました。

これらの結果、当連結会計年度のポーラスマテリアル事業の売上高は8,554百万円（同11.7%増）となりました。また、営業利益は、原材料や光熱費高騰による変動費の上昇や、新工場の稼働開始に伴う減価償却発生による原価上昇に加え、販売増加に伴う物流費や人件費の増加により、1,042百万円（同5.7%減）となりました。

(サービス)

a．自動車整備・鈹金事業（自動車分野）

鈹金事業では、在庫台数の回復には至っていないものの、滞っていた部品供給が一時的に回復したことや業務効率化による見積精度の向上により、在庫台数や修理単価が増加し前期を上回りました。美装事業においては、自動車用プロテクションフィルムにかかる施工・物販が好調に推移したことで、自動車整備・鈹金事業全体でも前期を上回りました。

b．自動車教習事業（自動車分野）

普通車の入所者数については、前期に緊急事態宣言などの影響から外出を制限され時間のできた学生の入所が増加しましたが、今期は通常に戻りつつある中で、新たに職業用免許の取得需要が高まるなど、コロナ禍の影響は徐々に弱まりつつあります。高齢者講習や企業研修についても受講者数が回復しましたが、教習事業全体では特需対応のため教習数を増やしていた前期を下回りました。

c．生活用品企画販売事業（生活分野）

採用アイテム数は増加しているものの、通販需要が落ち着いたことで単品当たりの販売数量が減少したことで、前期を下回りました。

これらの結果、当連結会計年度のサービス事業の売上高は、生活用品企画販売事業や、教習事業においてコロナ禍による特需がなくなったものの、自動車整備・鈹金事業での在庫台数の増加や美装事業の強化で売上をカバーしたことにより売上高は5,455百万円（同0.5%増）となりました。また、営業利益は人件費や燃料費高騰により原価が増加したものの、自動車整備・鈹金事業で他の利益減少をカバーしたことで226百万円（同13.0%増）となりました。

(不動産関連)

a. 不動産賃貸事業(生活分野)

保有物件において一部賃貸物件における事務所の退去などが発生したことで、前期を下回りました。

b. 温浴事業(生活分野)

前期は、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発出されたことにより、営業時間の短縮やアルコール提供中止などの対応を行っておりました。今期は、通常通りの営業活動を行えていることに加え、コラボイベントなどの実施により新規利用者も増加したことから来場者数が回復傾向にあり、前期を上回りました。

c. 介護予防支援事業(生活分野)

コロナ禍から回復基調にあるものの、高齢のお客様の感染症に対する警戒は継続しており、登録者数は低水準で推移しております。下期以降は感染者数が増加傾向にあることで全体の利用者数が減少し、前期を下回りました。

これらの結果、当連結会計年度の不動産関連事業の売上高は1,422百万円(同14.0%増)となりました。また、営業利益は、温浴施設での光熱費高騰の影響はあったものの、コロナ禍の影響を受けた前期に比べ、温浴事業において売上が好調だったことにより、251百万円(同7.8%増)となりました。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ72百万円の減少となり、当連結会計年度末の残高は19,813百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、2,619百万円の流入(前年同期は3,090百万円の流入)となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益が3,083百万円、減価償却費が802百万円、減損損失が353百万円発生したことや、棚卸資産が376百万円増加したこと、仕入債務が204百万円増加したこと、法人税等の支払額1,202百万円などを要因としております。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、2,176百万円の支出(前年同期は736百万円の支出)となりました。これは主に、ポーラスマテリアルの新工場建設などに伴って有形固定資産の取得による支出1,960百万円が発生したことや、投資有価証券の取得による支出1,125百万円、また投資有価証券の売却及び償還による収入1,210百万円を要因としております。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、516百万円の支出(前年同期は1,120百万円の支出)となりました。これは主に配当金の支払額791百万円と自己株式の取得による支出323百万円、自己株式の処分による収入350百万円などを要因としております。

生産、受注及び販売の実績

a. 生産実績

当連結会計年度の実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	前年同期比(%)
ファインケミカル (千円)	13,701,646	101.6
ポーラスマテリアル (千円)	7,542,898	108.2
合計(千円)	21,244,544	103.9

(注) 1. 金額は販売価格によっております。

2. サービス事業、不動産関連事業については、生産活動を伴わないため、記載しておりません。

b. 受注実績

該当事項はありません。

c. 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	前年同期比(%)
ファインケミカル (千円)	14,738,445	104.5
ポーラスマテリアル (千円)	8,554,330	111.7
サービス (千円)	5,455,270	100.5
不動産関連 (千円)	1,422,452	114.0
合計(千円)	30,170,498	106.1

(注) セグメント間の取引については、相殺消去しております。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。また、連結財務諸表の作成にあたり、見積りが必要な事項については、合理的な基準に基づき会計上の見積りを行っております。これらの概要については、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表」の「注記事項 (重要な会計上の見積り)」に記載しております。

また、繰延税金資産の回収可能性及び固定資産に関する減損損失の認識の判断に関する会計上の見積りの仮定においては、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえて、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表」の「注記事項 (追加情報)」に記載しております。

当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

a. 経営成績に重要な影響を与える要因

当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因は、「第2 事業の状況 3 事業等のリスク」に記載のとおりであります。

b. 資本の財源及び資金の流動性

当社グループの運転資金需要のうち主なものは、仕入に係る費用と販売費及び一般管理費などの営業費用であります。投資を目的とした資金需要は、設備投資及び新事業創出のための投資によるものであります。

当社グループの運転資金は自己資金を基本としており、金融機関からの借入は行っておりません。

なお、当連結会計年度末における有利子負債の残高は、営業預り保証金168百万円のみとなります。長期借入金295百万円については、従業員の福利厚生に資する「従業員持株会支援信託 E S P」導入に際しての信託スキームによる借入です。これは実質的に当社が利息の支払いを行うものではないため、有利子負債の残高には含んでおりません。また、当連結会計年度末における現金及び現金同等物の残高は19,813百万円であります。当連結会計年度のキャッシュ・フローの分析につきましては、「(1) 経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

c. 経営方針・経営戦略、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等について

第6次中期経営計画(2020年4月~2022年3月)最終年度である2023年3月期の達成・進捗状況は以下のとおりであります。

指標(連結)	第6次計画値 (計画)	2023年 3月期 (計画)	2023年 3月期 (実績)	第6次計画値 達成状況目標比 (%)	2023年3月期 達成状況目標比 (%)
売上高 (百万円)	27,100	29,000	30,170	111.3	104.0
営業利益 (百万円)	2,850	3,200	3,256	114.3	101.8
経常利益 (百万円)	3,000	3,400	3,440	114.7	101.2
親会社株主に帰属する当 期純利益 (百万円)	2,100	2,250	2,063	98.3	91.7
(参考)ROE(%) (純利益/純資産)	4.0	-	4.0	-	-
(参考)ROIC(%) (税引後営業利益/投下 資本)	6.1	-	7.1	-	-

第7次中期経営計画期間中のROICは概ね7.0~8.0%を推移する想定としており、当社の資本コストについては中長期的には概ね5.5~6.0%の水準であると認識しております。

今後も余資を活用した業容拡大に向けて、新しい製品・サービスの開発、新市場への進出に向けて、より一層注力してまいります。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6【研究開発活動】

当社グループは多様化、高度化、精密化した顧客ニーズに対応していくため、ファインケミカル事業とポーラスマテリアル事業にて製品の研究開発を進めております。

当連結会計年度における各事業別の研究開発活動の状況及び研究開発費の金額は次のとおりであります。

なお、当連結会計年度の研究開発費の総額は、609百万円であります。

(ファインケミカル)

当事業における当連結会計年度の研究開発費は308百万円となっております。

主な研究成果は次のとおりであります。

(1)自動車ボディ・ガラス・車内

ディグロス 鬼黒タイヤワックス

カーボンブラックとブラックシャインカルナバを使用しており、タイヤを黒々と輝かせ、2か月以上も効果が持続します。耐久性に優れ、雨や汚れ、UVからタイヤを守り、白化や赤茶けを防止します。水性タイプで石油系溶剤を使用していないため、ニオイが少なく快適に使用することができます。

ルームピア トレタナ本革用

車内の本革用クリーナーで、ボトル一体型容器を握ってシートをこするだけで、汚れを簡単に除去することができます。極細毛を高密度で配置した「MVB」ブラシを採用し、皮革を傷めずに奥まで入り込んで汚れをかき取ることが可能です。また、特殊界面活性剤とカルナバロウを配合し、色移り汚れもしっかり落とし、レーザーに自然なツヤと柔らかさを与えます。特殊レジン配合することで、レーザーシートだけでなく塩ビやウレタンなどの合成皮革へも対応しており、着座時に滑りにくくさせることで、快適なドライビングポジションを維持することができます。

G'z x ハイモースコートジ・エッジ

2層構造のガラス系ボディコーティングで、モース硬度レベル8の超高硬度被膜が高い光沢を生み出し、撥水・耐久性能に優れ、ベース層には高いバリア性、トップ層には高い撥水性能を発揮させることで、美しいボディを長期間維持することが可能です。発揮被膜は滑りに優れ、水が弾かれた瞬間に流れ落ちるほどの圧倒的なパフォーマンスを実現しております。

(2)衛生対策

PROSPEC抗菌抗ウイルスメンテナンスコート

このコート剤は、ドアノブや手すり、エレベーターの操作パネルなど手が触れる部分に簡単に施工できます。液剤を吹きかけて軽く拭き伸ばすだけで、抗菌・抗ウイルス効果が得られます。また、定着安定化剤と静電相互作用によって摩擦に強い耐久被膜を形成し、接触や擦れにも強く、効果は約1か月持続します。素材に優しいアルコールフリー設計で、当社防汚コーティング剤のメンテナンスとしても活用することが可能です。

(3)家庭用製品

スポルファ フォグシールド

スポーツアイウェアのレンズやゴーグルに直接拭き上げるだけで使えるクロスタイプのくもり止め商品です。スノーボードやスキー、ランニング、自転車、釣りなどのスポーツシーンで、アイウェアがくもるストレスを解消します。高吸着防曇成分HASを配合しており、強力で耐久力のあるくもり止め効果を発揮します。約150回使用可能で、エラストマー製ケースも付属しており、携帯にも便利です。屋外で手軽に使えるので、スポーツ中でもすぐに使用することができます。

当連結会計年度において、特許出願数は2件、実用新案出願数が3件でした。

当事業の研究開発活動は合計8名で行っております。

(ポーラスマテリアル)

当事業における当連結会計年度の研究開発費は301百万円となっております。

主な研究成果は次のとおりであります。

(1) メディカル関連

第2種医療機器製造販売業の業許可を取得し、クラス 〃 の商品開発が可能となりました。クラス 〃 の商品開発は、医師による評価で課題が明白になり改良に着手しました。また、クラス 〃 の商品開発を進め、医療機器申請に必要な安全データ等の取得を開始しました。

(2) 電極材関連

大学との基礎研究を行いつつ、当社電極材の特性を有効に活用できる用途、パートナーを模索しております。

(3) 新規テーマ関連

今年度も引き続き、大学とは下記の共同研究を進めております。

- ・硬脆材料用研磨材の開発：S i C基板だけでなく、他材料の砥粒レス研磨の可能性について検討を進めております。
- ・医療系に向けたP V Aスポンジへの機能付与：P V AスポンジのQ S抑制効果検証に加え、遺伝子検査に最適なP V Aスポンジの選定を目的とした評価を実施しました。
- ・脱室処理用担体の開発：嫌気性処理に適する担体の開発と処理性能の評価を実施しました。

(4) 半導体用洗浄関連

ユーザーからのB r e a k - i n時間短縮要求に対し、洗浄性能の向上、ブラシの改良、後洗浄方法等について開発を進めています。

(5) H D用研磨剤関連

H D基板の薄肉化に伴い、ユーザー毎に改良点の異なるリクエストに基づいて、砥石の開発、提案、及び品質安定化の取り組みを続けております。また、次世代の基板に対応する砥石の開発も継続しております。

(6) 生活資材関連

新規ブランド「S T T A」で展開している「S t i c k t y p e」については、引き続き営業サイドで拡販活動を続けております。

当連結会計年度において、特許出願が2件、実用新案出願が2件ありました。また、特許の登録は3件、実用新案の登録が2件でした。

当事業の研究開発活動は合計27名で行っております。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当社グループは、「成長分野への重点投資」を基本戦略として、今後の主力新製品の設備導入、拡販商品に限定した設備改善、品質向上のための設備改善、環境対策に不可欠な設備改善を重点に設備投資を行っております。

当連結会計年度の設備投資の内訳は、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度の設備投資金額
ファインケミカル	352百万円
ポーラスマテリアル	1,206百万円
サービス	149百万円
不動産関連	35百万円
合計	1,744百万円

ファインケミカル事業では、主に、当社におきまして、ソフトウェア関連で214百万円の投資を行った他、建物及び構築物の取得により69百万円、機械装置及び運搬具の取得で26百万円などの設備投資を実施しました。また、上海速特99化工有限公司において、機械装置及び運搬具の取得で5百万円の設備投資を実施しました。

ポーラスマテリアル事業では、アイオン(株)におきまして、主に第三工場建設のため建物及び構築物にて723百万円の投資を行った他、機械装置及び運搬具や、工具、器具及び備品の取得で470百万円の設備投資を実施しました。

サービス事業では、(株)ソフト99オートサービスにおきまして、主に土地と建物及び構築物の取得で77百万円の投資を行った他、車両運搬具や工具、器具及び備品の取得で42百万円の設備投資を実施しました。また、アスモ(株)におきまして、車両運搬具の取得で16百万円の設備投資を実施しました。

不動産関連事業では、主に当社におきまして、建物及び構築物の取得により23百万円の投資を行った他、機械装置及び運搬具の取得で5百万円の設備投資を実施しました。

2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

(1) 提出会社

2023年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (人)
			建物及び 構築物	機械装置	土地 (面積㎡)	その他	合計	
三田工場 (兵庫県三田市)	ファイン ケミカル	生産設備・ 物流倉庫	288,628	86,826	1,344,121 (29,857.53)	17,287	1,736,863	54 (41)
本社 (大阪市中央区)	ファイン ケミカル 不動産関連	営業・統轄業 務・総合研究 施設・賃貸・ 駐車場	553,413	7,864	764,906 (758.36)	89,415	1,415,600	88 (2)
秋葉原ビル (東京都千代田区)	不動産関連	賃貸	366,296	3,411	1,430,684 (277.60)	745	1,801,139	- (-)
名古屋支店 (名古屋市中区)	ファイン ケミカル 不動産関連	営業・賃貸・ 社宅	401,461	347	131,879 (484.52)	4,664	538,352	5 (-)
名古屋白金ビル (名古屋市中区)	不動産関連	賃貸	210,162	-	193,748 (994.27)	3,273	407,183	- (-)
福岡支店 (福岡市南区)	ファイン ケミカル 不動産関連	営業・賃貸	44,756	-	125,694 (772.00)	2,768	173,218	6 (1)
札幌営業所 (札幌市豊平区)	ファイン ケミカル	営業	14,679	194	107,277 (1,086.04)	2,462	124,613	3 (-)
仙台支店 (仙台市宮城野区)	ファイン ケミカル	営業	15,060	-	21,437 (192.78)	3,212	39,710	5 (-)
世田谷マンション (東京都世田谷区)	不動産関連	賃貸用住宅	398,035	1,048	479,019 (1,182.11)	1,986	880,090	- (-)
仙台社宅 (仙台市宮城野区)	ファイン ケミカル	社宅	10,409	-	63,644 (624.91)	0	74,053	- (-)
三田社宅 (兵庫県三田市)	ファイン ケミカル	社宅	43,924	-	471,473 (6,818.64)	59	515,456	- (-)
C u C u真砂 (大阪府茨木市)	ファイン ケミカル 不動産関連	賃貸・社宅	153,642	1,533	324,118 (1,436.63)	46	479,339	- (-)
東京支店 (東京都江東区)	ファイン ケミカル	営業・マ-ケ ティング	590,790	457	1,143,071 (2,299.99)	17,377	1,751,696	41 (-)
東大阪流通センター (大阪府東大阪市)	ファイン ケミカル 不動産関連	物流倉庫	428,168	-	416,902 (1,966.93)	1,776	846,846	- (-)
上尾マンション (埼玉県上尾市)	不動産関連	賃貸	50,322	-	104,770 (556.34)	0	155,092	- (-)
G'ZOXテクノセンター (大阪府東大阪市)	ファイン ケミカル	営業	3,941	-	194,851 (999.90)	333	199,125	- (-)

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (人)
			建物及び 構築物	機械装置	土地 (面積㎡)	その他	合計	
極楽湯東大阪店 (大阪府東大阪市)	不動産関連	温浴設備	2,806	918	1,070,000 (5,176.72)	0	1,073,724	- (-)
極楽湯枚方店 (大阪府枚方市)	不動産関連	温浴設備	1,754	4,639	598,000 (7,294.37)	1,432	605,827	- (-)
極楽湯尼崎店 (兵庫県尼崎市)	不動産関連	温浴設備	59,900	0	666,115 (6,555.20)	157	726,174	- (-)
オトサ-ビスセンタ- (大阪府中央区)	不動産関連	生産設備	25,609	-	403,782 (655.12)	22	429,414	- (-)
R & Dセンタ- (神戸市北区)	ファイン ケミカル	研修センタ- 総合研究施設	71,979	0	826,237 (20,013.07)	8,305	906,552	6 (1)

(2) 国内子会社

2023年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (人)
				建物及び 構築物	機械装置	土地 (面積㎡)	その他	合計	
アイオン(株)	本社 (大阪府中央区)	ポ-ラス マテリアル	営業・統括	5,416	-	- (-)	7,946	13,362	21 (2)
アイオン(株)	関東工場 (茨城県古河市)	ポ-ラス マテリアル	PVAスポン ジ等生産設備	2,360,221	357,827	2,321,469 (58,610.29)	596,881	5,636,398	162 (38)
アスモ(株)	本社 (大阪府中央区)	ファイン ケミカル サ-ビス	営業・統括・ 生産設備	-	-	- (-)	4,769	4,769	7 (1)
アスモ(株)	尼崎ドライブスク -ル (兵庫県尼崎市)	サ-ビス	自動車教習 施設	38,538	-	712,798 (14,755.69)	50,657	801,993	86 (39)
(株)ソフト99 オトサ-ビス	本社 (大阪府中央区)	サ-ビス	営業・統括	17,732	429	- (-)	163,405	181,566	24 (1)
(株)ソフト99 オトサ-ビス	鶴見工場 (大阪府鶴見区)	サ-ビス	生産設備	28,556	9,283	591,160 (1,937.83)	9,644	638,643	53 (2)
(株)ソフト99 オトサ-ビス	東大阪工場 (大阪府東大阪市)	サ-ビス	生産設備	118,371	10,845	317,408 (1,920.42)	17,226	463,850	28 (2)
(株)ソフト99 オトサ-ビス	東京工場 (東京都江東区)	サ-ビス	生産設備	16,499	9,071	- (-)	67,937	93,507	24 (2)
(株)ソフト99 オトサ-ビス	京都工場 (京都府八幡市)	サ-ビス	生産設備	12,046	1,070	- (-)	6,079	19,195	23 (1)
(株)ソフト99 オトサ-ビス	高井田工場 (大阪府東大阪市)	サ-ビス	生産設備	15,045	452	- (-)	3,778	19,275	16 (-)
(株)くらし企画	本社 (東京都江東区)	サ-ビス	営業・統括	-	-	- (-)	4,057	4,057	33 (1)
(株)くらし企画	物流センタ- (東京都練馬区)	サ-ビス	物流	13,771	-	34,839 (102.47)	-	48,610	- (-)
(株)ハネロン	本社 (大阪府八尾市)	電子機器 製造	営業・統括	139	5,573	- (-)	5,326	11,038	25 (-)
アズテック(株)	本社 (東京都千代田区)	ポ-ラス マテリアル	営業・統括	3,292	-	- (-)	1,499	4,791	9 (-)

(3) 在外子会社

2023年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (人)
				建物及び 構築物	機械装置	土地使用権 (面積㎡)	その他	合計	
上海速特99化工有限公司	上海工場 (中国上海市)	ファイン ケミカル	営業・統轄	-	-	- (9,693.00)	-	-	5 (-)

(注) 1. 従業員数の()は、臨時雇用者数の当連結会計年度の期末人員を外数で記載しております。

2. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品、車両運搬具、リース資産、ソフトウェア及び建設仮勘定であります。
3. 上海速特99化工有限公司(在外子会社)の土地使用権(9,693㎡)は、1994年11月より50年間の使用契約であります。なお、この在外子会社における製品製造は、外部協力工場へ委託しております。
4. 本社の設備の一部を、子会社であるアイオン(株)、アスモ(株)、(株)オレンジ・ジャパン、(株)アンテリア及びアズテック(株)へ賃貸しております。
5. 秋葉原ビルの設備の一部を、子会社であるアズテック(株)へ賃貸しております。
6. C u C u 真砂の設備の一部を、子会社であるアイオン(株)へ賃貸しております。
7. 東京支店の設備の一部を、子会社であるアイオン(株)、(株)ソフト99オートサービス、(株)くらし企画、(株)オレンジ・ジャパンへ賃貸しております。
8. 東大阪流通センター及びG'ZOXテクノセンターの設備の一部を、子会社である(株)ソフト99オートサービスへ賃貸しております。
9. 極楽湯3店舗の設備の一部を、子会社であるアスモ(株)へ賃貸しております。
10. オートサービスセンターの設備を、子会社である(株)ソフト99オートサービスへ賃貸しております。

3【設備の新設、除却等の計画】

当連結会計年度末現在における重要な設備の新設、改修計画は次のとおりであります。

(1) 重要な設備の新設

会社名 事業所名	所在地	セグメントの 名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達 方法	着手及び完了予定		完成後の 増加能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
アイオン 関東工場	茨城県 古河市	ポーラス マテリアル	PVAスポンジ 開発・生産設備	428	0	自己資金	2024年3月期 上期	2024年3月期 下期	-
当社 三田工場	兵庫県 三田市	ファイン ケミカル	生産設備等	100	0	自己資金	2024年3月期 上期	2024年3月期 下期	-
当社 R&D センター	大阪府 東大阪市	ファイン ケミカル	実験用途施設の建設 及び システム・機械装置	142	0	自己資金	2024年3月期 上期	2024年3月期 下期	-
当社 本社	大阪市 中央区	ファイン ケミカル	ソフトウェア等	46	0	自己資金	2024年3月期 上期	2024年3月期 下期	-

(注) 完成後の増加能力については算定が困難であるため、記載を省略しております。

(2) 重要な設備の改修

会社名 事業所名	所在地	セグメントの 名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達 方法	着手及び完了予定		完成後の 増加能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
アイオン 関東工場	茨城県 古河市	ポーラス マテリアル	PVAスポンジ 開発・生産設備	123	0	自己資金	2024年3月期 上期	2024年3月期 下期	-
当社 三田工場	兵庫県 三田市	ファイン ケミカル	生産設備等	51	0	自己資金	2024年3月期 上期	2024年3月期 下期	-
当社 本社	大阪市 中央区	ファイン ケミカル	ソフトウェア等	40	0	自己資金	2024年3月期 上期	2024年3月期 下期	-
当社 秋葉原ビル	東京都 千代田区	不動産関連	エレベーター設備等	36	0	自己資金	2024年3月期 上期	2024年3月期 下期	-

(注) 完成後の増加能力については算定が困難であるため、記載を省略しております。

(3) 重要な設備の除却

該当事項はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	60,000,000
計	60,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (2023年3月31日)	提出日現在発行数 (株) (2023年6月29日)	上場金融商品取引所名又は登録 認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	22,274,688	22,274,688	株式会社東京証券取引所 スタンダード市場	完全議決権株式であり、 権利内容に何ら限定のない 当社における標準となる株式 単元株式数：100株
計	22,274,688	22,274,688	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額(千円)	資本準備金 残高(千円)
2005年11月21日 (注)	11,137	22,274	-	2,310,056	-	3,116,158

(注) 株式分割(1:2)によるものであります。

(5)【所有者別状況】

2023年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状 況 (株)
	政府及び地 方公共団体	金融機関	金融商品取 引業者	その他の法 人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	10	13	66	56	4	7,669	7,818	-
所有株式数 (単元)	-	30,910	1,377	57,180	33,336	4	99,887	222,694	5,288
所有株式数の 割合(%)	-	13.9	0.6	25.7	15.0	0.0	44.9	100.0	-

(注) 自己株式289,505株は、「個人その他」に2,895単元及び「単元未満株式の状況」に5株含めて記載しております。

(6)【大株主の状況】

2023年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
サントレード株式会社	大阪府東大阪市長田西3丁目5-17	3,246,528	14.77
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-12	1,708,600	7.77
MIKIKO SUZUKI	米国 ハワイ州	1,492,656	6.79
CGML PB CLIENT ACCOUNT / CO LLATERAL (常任代理人 シティバンク、 エヌ・エイ東京支店)	CITIGROUP CENTRE, CANADA SQUARE, CANARY WHARF, LONDON E14 5LB (東京都新宿区新宿6丁目27番30号)	1,458,300	6.63
株式会社エイチイーエス	大阪府枚方市楠葉朝日2丁目6-21	835,000	3.80
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	799,200	3.64
田中 秀明	京都府京田辺市	661,976	3.01
ソフト99従業員持株会	大阪市中央区谷町2丁目6-5	644,380	2.93
公益財団法人ナインティナイン・アジア留学生奨学基金	大阪市中央区谷町2丁目6-5	603,720	2.75
田中 佐世子	大阪府枚方市	594,192	2.70
計	-	12,044,552	54.78

(注) 2021年3月23日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書において、シンプレクス・アセット・マネジメント株式会社が2021年3月16日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として2023年3月31日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。
なお、その大量保有報告書の内容は次のとおりであります。

大量保有者	シンプレクス・アセット・マネジメント株式会社
住所	東京都千代田区丸の内1丁目5番1号
保有株券等の数	2,791,600株
株券等保有割合	12.53%

(7)【議決権の状況】

【発行済株式】

2023年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 289,500	-	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 21,979,900	219,799	同上
単元未満株式	普通株式 5,288	-	-
発行済株式総数	22,274,688	-	-
総株主の議決権	-	219,799	-

【自己株式等】

2023年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(株)ソフト99コーポレーション	大阪市中央区谷町2丁目6番5号	289,500	-	289,500	1.30
計	-	289,500	-	289,500	1.30

(8) 【役員・従業員株式所有制度の内容】

当社は2022年11月25日開催の取締役会において、「従業員持株会支援信託E S O P」（以下、「本制度」といいます。）の導入を決議いたしました。

本制度の導入に伴い、当社は、2022年12月12日付で、第三者割当により、株式会社日本カストディ銀行（信託E口）（以下、「信託口」といいます。）に対し、自己株式292,200株を処分しております。なお、当該信託契約に係る会計処理については、「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第30号 2015年3月26日）を適用し、当社から信託へ自己株式を処分した時点で処分差額を認識し、信託から従業員持株会に売却された株式に係る売却差損益、信託が保有する株式に対する当社からの配当金及び信託に関する諸費用の純額を資産又は負債に計上することとしております。

() 取引の概要

本制度は、従業員持株会に対して当社株式を安定的に供給すること及び信託財産の管理により得た収益を従業員へ分配することを通じて、従業員の福利厚生の実現を図り、従業員の株価への意識や労働意欲を向上させるなど、当社の企業価値の向上を図ることを目的としています。

本制度は、「ソフト99従業員持株会」（以下、「持株会」といいます。）に加入するすべての従業員を対象に、当社株式の株価上昇メリットを還元するインセンティブプランです。

本制度の導入にあたり、当社は、当社を委託者、株式会社りそな銀行を受託者とする「株式給付信託（従業員持株会処分型）契約」（以下、「本信託契約」といいます。）を締結します（本信託契約に基づいて設定される信託を「本信託」といいます。）。また、株式会社りそな銀行は株式会社日本カストディ銀行との間で、株式会社日本カストディ銀行を再信託受託者として有価証券等の信託財産の管理を再信託する契約を締結します。

株式会社日本カストディ銀行は、信託口において、信託期間にわたり持株会が購入することが見込まれる数に相当する当社株式を予め一括して取得し、以後、持株会の株式購入に際して当社株式を売却していきます。信託口による持株会への当社株式の売却を通じて、信託終了時までには、本信託の信託財産内に株式売却益相当額が累積した場合には、かかる金銭を残余財産として、受益者適格要件を充足する持株会加入者（従業員）に分配します。

また、当社は、本信託が当社株式を取得するための借入に際し保証をするため、当社株価の下落等により、信託終了時において、株式売却損相当額の借入残債がある場合には、保証契約に基づき当社が当該残債を弁済することとなります。

信託口の信託財産に属する当社株式に係る議決権行使については、信託管理人が本信託契約に定める「信託管理人ガイドライン」に従って、信託口に対して議決権行使の指図を行い、信託口はその指図に従い議決権行使を行います。

() 従業員持株会に取得させる予定の株式の総数

292,200株

() 当該従業員株式所有制度による受益権その他の権利を受けることができる者の範囲

本信託契約で定める信託契約終了日において、持株会に加入している者のうち、本信託契約で定める所定の受益者確定手続きの全てを完了している者を受益者とします。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(2023年5月15日)での決議状況 (取得期間 2023年5月15日~2023年9月30日)	60,000	100,000,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	-	-
残存決議株式の総数及び価額の総額	-	-
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	-	-
当期間における取得自己株式	10,900	14,644,000
提出日現在の未行使割合(%)	81.8	85.4

(注) 当期間における保有自己株式数には、2023年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの取得自己株式や単元未満株式の買取り及び売渡による株式は含まれておりません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないもの内容】

該当事項はありません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、株式交付、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (-)	292,200	323,757,600	-	-
保有自己株式数	289,505	-	300,405	-

(注) 1. 当期間における保有自己株式数には、2023年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの取得自己株式や単元未満株式の買取り及び売渡による株式は含まれておりません。

2. 当事業年度における「その他」は、「従業員持株会支援信託E S P」の導入に伴い、2022年12月12日付で実施した株式会社日本カストディ銀行(信託口)への第三者割当による譲渡であります。

3【配当政策】

当社は、株主の皆様への適切な利益還元を重要な経営政策のうちの一つとして位置付けております。

利益配分につきましては、「安定的・継続的な配当」を基本方針としております。その具体的な目標値については、3年毎の中期経営計画策定時にその時々々の経営状況を勘案したうえで検討を行い、中期経営計画の発表時に、株主還元に関する目標値を併せて開示いたします。

当事業年度につきましては、本来の事業運営結果に直結し、かつ、特殊要因の影響を受け難い安定した還元実行を目指し、『連結営業利益の25%』を基本方針とした還元を実施いたします。

内部留保については、将来の事業拡大と経営体質強化に向けた投資に活用してまいります。

なお、当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としており、これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当社は、「取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として中間配当を行うことができる」旨を定款に定めております。

当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
2022年11月4日 取締役会決議	401,320	18.5
2023年6月29日 定時株主総会決議	417,718	19.0

4【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、企業グループ全体の統治方針として、当社グループを取り巻く各ステークホルダーとの関わり方についての行動原則となる『ソフト99グループ行動憲章』及び『ソフト99・コーポレート・ガバナンス・ポリシー』を定め、「合理的な経営システムの構築」「ステークホルダーとの協調」「経営の透明性確保」を3つのテーマとして管理運用しております。

企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

当社は、『ソフト99・コーポレート・ガバナンス・ポリシー』に基づいた合理的な経営システムの構築を目指し、経営の中核である取締役会について、“運営”、“人事”、“監視と助言”、“活動支援”の4つの観点に基づいたガバナンス方針を設定し、企業規模と事業内容に見合ったコンパクトで実効性のある経営システムの構築を旨としております。

この方針に基づき、当社の企業統治の体制については、監査役制度を採用し、会社の機関としては会社法に定められた株主総会、取締役会、監査役会・監査役及び会計監査人の設置を選択するとともに、独立役員である社外取締役及び社外監査役が取締役会に参加し、各ステークホルダーの立場を踏まえた客観的な意見・助言を行うことによって、受託者責任を踏まえた合理的な取締役会の運営に努めております。

() 取締役会の運営

- ・取締役会は、取締役会規程等に基づき付議事項の審議及び重要な報告がなされるとともに、各取締役の業務の執行を適切に監督しております。取締役会は毎月1回開催し、審議活性化のために適切なスケジュール管理、資料配布、じゅうぶんな審議時間の確保に努め、また、必要に応じ臨時取締役会を開催しております。
- ・取締役会は、事業運営の実務に精通する社内取締役と、事業運営について客観的見地から監視・助言を行う社外取締役から構成されております。これに監査役を加えた参加人数を20名以内とすることで、審議の実効性担保と迅速な意思決定に努めております。
- ・取締役会に社外取締役が参加することで、より客観的・大局的見地から経営全般に対する監督及び助言を行い、取締役相互間の監督体制の強化と透明性のある意思決定に実効性を持たせております。さらに、高い独立性と専門性を有する社外監査役が参加することで、より専門的な見地からの助言により取締役の業務執行の監査・監督の実効性を確保しております。
- ・その他に取締役運営の実効性を担保する手段として、社外取締役と監査役による取締役会運営に関する実効性評価を実施しております。

() 取締役会の活動状況

- ・本年度における当社取締役会の実施状況につきましては、毎月1回の定期開催に加え、臨時で2回の招集を行ったことにより、合計14回開催されました。全取締役及び全監査役の出席率は98.4%でした。各取締役及び各監査役の出席率は以下の通りです。

役職名	氏名	取締役会出席率
代表取締役	田中 秀明	100% (14/14回)
取締役	小西 紀行	100% (14/14回)
取締役	上尾 茂	100% (14/14回)
取締役	石居 誠	100% (14/14回)
取締役	宮園 哲哉	92.9% (13/14回)
取締役	田中 一成	100% (14/14回)
取締役	生駒 英昭	100% (14/14回)
取締役(社外取締役)	井原 慶子	100% (14/14回)
取締役(社外取締役)	藤井 美保代	92.9% (13/14回)

役職名	氏名	取締役会出席率
常勤監査役	古居 祐	92.9% (13/14回)
常勤監査役	福井 健司	100% (14/14回)
監査役(社外監査役)	平井 康博	100% (14/14回)
監査役(社外監査役)	樋口 秀明	100% (14/14回)

- ・取締役会で議論された主な議題としましては、中期経営計画の主要戦略について、月次予算実績進捗、ガバナンスに関する遵守状況や環境対応等について議論しておりました。なお、当社はコンパクトで実効性のある経営システムの構築を旨としていることから、定期的に会合を開くことを定義したその他委員会は設置しておりません。

() 取締役会人事

- ・社内取締役のうち、業務管掌取締役については、当社事業運営の各分野より実務経験豊富な者をバランスよく選出することを基礎としております。また、代表取締役の選定については、当社取締役として当社グループ関係会社の管理監督に関する業務執行の経験があることを条件に、取締役会での審議を踏まえ、取締役の互選により選定されます。なお、現在の取締役会の構成員は、田中秀明、小西紀行、上尾茂、石居誠、宮園哲哉、田中一成、生駒英昭、井原慶子、藤井美保代であります。
- ・社外取締役には、客観的な立場から企業価値向上に向けた様々な提言を行っていただくことを第一に求めており、特に独立社外取締役については、以下の基準を満たす候補者を選出しております。
 - (イ) 経営の監視に必要な当社事業に関連する幅広い知見、又は財務会計・法務・企業統治等の実務経験と知識に基づき、経営及び業務執行において、特定の利害関係者の利益に偏重することのない公平公正な判断能力を有していること。
 - (ロ) 会社法の定める社外取締役の要件を満たしていること。
 - (ハ) 株主総会での選任前5年間に於いて証券取引所の定める社外役員の独立性基準を満たしていること。
- ・取締役の他の上場企業との兼任状況については、毎年株主総会招集通知にて開示いたします。

() 取締役会の監督

- ・取締役会の監督機能として、監査役会を原則として毎月1回取締役会開催の1週間前迄に開催しております。各監査役は、監査役会が策定した監査計画に基づき監査を実施しております。監査役は取締役会への参加を原則とし、各ステークホルダーの利益に配慮した客観的な立場から取締役会に対して意見・要望を適時提言しております。また、監査役のうち独立社外監査役については、以下の基準を満たす候補者を選出しております。
 - (イ) 弁護士・公認会計士・税理士、その他プロフェッショナルとして、財務全般・法務全般・企業統治等に関して専門的知見と経験を有していること。
 - (ロ) 会社法の定める社外監査役の要件を満たしていること。
 - (ハ) 株主総会での選任前5年間に於いて証券取引所の定める社外役員の独立性基準を満たしていること。
- ・監査役と社外取締役が適宜意見交換をすることにより、社外役員間の適切な情報共有をはかっております。
- ・監査役の他の上場企業との兼任状況については、毎年株主総会招集通知にて開示いたします。
- ・社外監査役として有用な人財を迎えることができるよう、現行定款において、社外監査役との間で、当社への損害賠償責任を一定の範囲内に限定する契約を締結できる旨を定めております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、会社法第425条第1項に規定する最低責任限度額としております。

() 役員活動支援

- ・取締役及び監査役の活動を支援すべく、各社内部門において、その部門長を各役員への情報提供窓口として設定しております。なお、主要な部門長は取締役を兼務しておりますので、取締役会及び各取締役・監査役への迅速かつ正確な情報収集・提供が可能となっております。
- ・内部監査規程に基づき、内部監査部門が各取締役・監査役への定期報告・適宜報告を行うことで、適切な連携が可能な体制を整えております。
- ・当社の新任役員については、原則として社外講習会への参加を要請しており、取締役としての活動に必要な企業統治・財務会計・法務等の各種情報の習得に対応するとともに、各役員からの要請に応じて、適切な社内外研修その他トレーニングを実施いたします。

企業統治に関するその他の事項

() 内部統制システム及びリスク管理体制の整備の状況

- ・当社は『ソフト９９グループ行動憲章』及び『ソフト９９・コーポレート・ガバナンス・ポリシー』に基づく行動規範の遵守を徹底することで、内部統制とリスク管理に努めております。

(a) 行動準則の策定と実践

- ・当社は、全ての取締役・従業員・監査役の行動原則として『ソフト９９グループ行動憲章』を、また、内部統制のための社内規程として『内部統制システムに関する基本的な考え方』を定めており、これらを遵守することが、当社グループの事業活動におけるリスク管理体制の基礎となります。
- ・『ソフト９９グループ行動憲章』及び『内部統制システムに関する基本的な考え方』の遵守状況については、内部統制委員会及び内部監査部門より、適宜取締役会にて報告がなされ、全取締役及び監査役の間で情報が共有されます。

(b) 内部統制制度

- ・当社は、全社的なリスク管理体制の整備及び問題点の把握に努めるため、組織から独立した委員会として、代表取締役を委員長とし、取締役及び部門長を委員とする内部統制委員会を設置し、全社統制、業務プロセス統制及びIT統制の観点から内部統制全体を適切に分析してリスクを洗い出した上、関係者への質問や記録の検証等の手続きを行い、内部統制システムの整備・運用を通じて、リスク管理体制の強化をはかっております。なお内部統制委員会は、内部監査部門との連携による調査結果を遅滞なく取締役会へ報告しております。
- ・内部統制委員会においては、取締役会決議により選任された取締役を委員長とする法令遵守部会を設置し、当社グループ会社を含めた社内研修や通信教育等による啓蒙活動を行うとともに、法令遵守に関する重要な問題を審議し、その結果を随時内部統制委員会と取締役会にて報告しております。
- ・当社グループの経営に重大な影響を与える不測の事態が発生した場合は、「危機管理規程」に基づき、代表取締役を本部長とし、全役員をメンバーとする危機管理本部を直ちに召集して、迅速な初期対応を行い、損害・影響等を最小限に留める体制を整備しております。

(c) 株主の利益を害する可能性のある資本政策への対応

- ・支配権の変動や株式の希薄化をもたらす各種の資本政策については、取締役会の運営及び取締役会の監視・助言にかかるガバナンス方針に基づき、取締役会及び監査役会においてその必要性や合理性を都度慎重に検討し、実行に際しては、その検討内容について速やかに開示・説明いたします。

(d) 関連当事者間取引の手続きと枠組み、及び取締役会・社外役員による監視体制

- ・当社グループ企業が、当社役員や当社役員が実質的に支配する法人、また、主要株主などと取引を行う場合については、当社からの独立性確保の観点も踏まえ、取引条件及びその決定方法の妥当性について、社外取締役及び社外監査役が参加する取締役会においてじゅうばんに審議した上での決議を要することと定めることで、当社にとって不利益が発生しない体制を整えております。

(e) 重要情報の適時開示基準及び開示手続き

- ・当社は、株主・投資家、その他ステークホルダー等に対し、当社の経営状況及び企業活動全般について正しいご理解をいただくために、法令に基づいた適時・適切な情報開示に努めるとともに、法令に基づく開示以外の自主的な情報開示についても取り組んでおります。特に経営理念・経営方針・経営計画については中期３ヵ年計画の形式で具体的内容を示したうえで、その進捗状況を適時開示する体制を整えております。
- ・情報開示手続きについては、代表取締役社長が管掌する経営企画部門が、広報・総務・経理等の各部門と連携し、各種对外発表に関する実務を行っております。また、社内では定める企業秘密管理規程及び内部者取引管理規程を遵守することにより、関係者によるインサイダー取引及びその疑いを抱かれるような株式売買の発生を防止しております。

() 子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況

- ・各子会社の監査役が業務監査を実施するとともに、グループ監査役会を通じて提出会社の監査役会に報告しております。グループ監査役会には適宜内部監査部門が参加し、お互いの情報を交換することで実効性を高めております。また、関係会社管理規程、その他関連規程に基づき、子会社の内部統制及びリスク管理は内部統制委員会が総括しております。また、内部監査、経営企画や管理部門とも連携し、各子会社の内部統制の構築、運用状況を一般的に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して評価するとともに、内部統制システムの整備、運用を通じてリスク管理体制の強化をはかっております。

- ・内部監査部門は、全社統制及び業務プロセス統制のうち全社的な観点で評価することが適切と考えられるものについては、提出会社及び連結子会社4社を評価の対象とし内部統制全体を適切に分析して、関係者への質問記録の検証等の手続きを行い、内部統制の整備、運用を行うとともにその状況が、業務プロセス統制に及ぼす影響の程度を評価しております。なお、連結子会社5社については金額的質的重要性の観点から僅少であると判断し、全社的な内部統制の評価範囲に含めておりません。
 - ・業務プロセスにおいては、財務報告に対する金額的質的影響の重要性を考慮し、上記の全社統制の評価結果を踏まえ、連結売上高を指標にその概ね3分の2程度の割合に達している事業拠点を重要な事業拠点として、それらの事業拠点におけるグループの事業目的に大きく関わる勘定科目である、「売上高」、「売掛金」、「棚卸資産」、「仕入高」、「買掛金」に係るプロセスを評価の対象とし、それぞれのプロセスを分析して、統制上の要点を選定し、関連文書の閲覧、関係者への質問、内部統制の実施記録の検証等の手続きを行い、整備、運用状況を評価し、その内容を内部統制委員会に報告しております。
 - ・経営企画部門は、各子会社の主要な会議への参加やグループ全体の経営会議開催を通じて、経営・財務等の内容を適切に把握するとともに、グループ中期経営計画等を策定し、それに則り主要経営目標等の設定及び進捗について管理、検証を行い、取締役会へ報告を行っております。
 - ・管理部門は、子会社に対して、経理実務の情報提供及び指導、グループ行動憲章の周知徹底、法令遵守に関する社内研修等の啓蒙活動によりグループ全体としての統制環境の強化を行っております。
- () 取締役に関する定款の定め
- (a) 取締役の定数
- ・当社の取締役は、20名以内とする旨を定款に定めております。
- (b) 取締役選任の要件
- ・当社は、取締役の選任決議について議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び累積投票によらない旨を定款に定めております。また、取締役候補者の指名につきましては『ソフト99・コーポレート・ガバナンス・ポリシー』で定めた方針と手続きを設定しております。
- (c) 取締役の責任免除
- ・当社は、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役（取締役であった者を含む。）の損害賠償責任を取締役会の決議によって免除することができる旨、また、会社法第427条第1項の規定により、社外取締役との間に、任務を怠ったことによる損害賠償責任を限定する契約を締結することができる旨を定款に定めております。ただし、いずれの限度額も、法令の定める額を上限としております。
- () 役員等賠償責任保険契約の内容の概要
- ・当社は、保険会社との間で会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を締結しております。当社取締役及び監査役を含む被保険者の職務の執行に関し責任を負うこと、又は、当該責任の追及に係る請求を受けることによって生ずることのある損害を当該保険契約によって填補することとしております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該取締役が責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。
- () 株主総会決議事項を取締役会にて決議することができることとした事項及びその理由
- ・当社は、機動的な資本政策を遂行することができるよう、取締役会の決議をもって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。
 - ・当社は、株主の便宜を図るため取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、中間配当金として剰余金の配当をすることができる旨を定款に定めております。
 - ・当社は、会社法第426条第1項の規定に基づき、取締役会の決議により、同法第423条第1項の行為に関する取締役（取締役であった者を含む。）及び監査役（監査役であった者を含む。）の損害賠償責任を法令の限度において免除することができる旨を定款に定めております。これは取締役会及び監査役会がその職務を遂行するに際し、能力をじゅうぶんに発揮できる環境整備を目的とするものであります。
- () 株主総会の特別決議要件
- ・当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

() 種類株式に関する事項

- ・当社は、発行可能株式総数を60,000,000株とする旨を定款に定めております。発行済株式22,274,688株は全て完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。

() 利益相反取引に関する事項

該当事項はありません。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性11名 女性2名(役員のうち女性の比率15.4%)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長	田中 秀明	1971年8月19日生	1996年10月 当社入社 2002年4月 当社商品開発室長 2008年5月 当社経営企画室長 2008年6月 当社取締役経営企画室長 2013年4月 当社代表取締役社長(現在に至る)	(注)3	661
取締役 ポラスマテリアル事業担当	小西 紀行	1960年3月27日生	1983年4月 当社入社 2010年8月 当社リテイルソリューションズ 東日本統括部長 2011年7月 当社リテイルソリューションズ 本部長 2016年6月 当社取締役リテイルソリューションズ 本部長 2017年4月 当社取締役営業統括本部副本部長 2019年6月 アイオン(株)代表取締役社長 (現在に至る) 2019年6月 当社取締役ポラスマテリアル事 業担当(現在に至る)	(注)3	40
取締役 管理本部長	上尾 茂	1963年11月30日生	1986年4月 株式会社三和銀行 (現株式会社三菱UFJ銀行) 入行 2012年7月 株式会社三菱東京UFJ銀行 (現株式会社三菱UFJ銀行) 融資部臨店指導室 上席調査役 2016年11月 当社入社 管理本部副本部長 2017年7月 当社管理本部長 2018年6月 当社取締役管理本部長 (現在に至る)	(注)3	1
取締役 企画開発本部長	石居 誠	1960年6月13日生	1984年12月 当社入社 2003年4月 当社研究開発部長 2010年4月 当社企画開発本部副本部長兼 研究開発部長 2011年6月 当社取締役企画開発本部副本部長 兼研究開発部長 2013年4月 当社取締役企画開発本部長 2023年4月 当社取締役企画開発本部長 兼研究開発部長(現在に至る)	(注)3	28
取締役 生産統括本部長	宮園 哲哉	1962年5月27日生	1985年4月 当社入社 2005年4月 当社三田工場購買管理室長 2010年4月 当社三田工場製造部長 2018年4月 当社生産統括本部副本部長 2020年6月 当社取締役生産統括本部副本部長 2022年6月 当社取締役生産統括本部長 (現在に至る)	(注)3	8
取締役 営業統括本部長	田中 一成	1961年11月30日生	1984年4月 当社入社 2006年4月 当社東京第二営業部長 2011年7月 当社リテイルソリューションズ 東日本統括部長 2017年4月 当社営業統括本部副本部長 (消費財担当) 2020年6月 当社取締役営業統括本部副本部長 (消費財担当) 2022年6月 当社取締役営業統括本部長 (消費財担当)(現在に至る)	(注)3	39

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役 営業統括本部副本部長	生駒 英昭	1962年1月30日生	1984年4月 当社入社 2009年4月 当社西日本開発営業部長 2012年4月 当社開発営業本部副本部長 2017年4月 当社営業統括本部副本部長 (業務用担当) 2020年6月 当社取締役営業統括本部副本部長 (業務用担当)(現在に至る)	(注)3	45
取締役	井原 慶子	1973年7月4日生	2014年7月 愛知県春日井市広報大使 (現在に至る) 2015年4月 慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科特任教授就任 (現在に至る) 2016年4月 三重県政策アドバイザー (現在に至る) 2016年6月 当社取締役(現在に至る) 2018年6月 日産自動車株式会社取締役 (現在に至る) 2020年10月 Future株式会社代表取締役 (現在に至る)	(注)3	-
取締役	藤井 美保代	1965年3月11日生	1987年4月 ソニー企業株式会社入社 1993年4月 ソニーヒューマンキャピタル株式会社入社 1998年9月 経済産業省産業構造審議会委員 経営士(通産大臣許可29第2638号)登録 1999年5月 京都府中小企業支援アドバイザー 委嘱 2002年7月 株式会社ビジネスプラスサポート 設立 代表取締役就任(現在に至る) 2018年4月 一般社団法人Freely Life Create (旧:一般社団法人ミャンマー人財開発機構)設立 代表理事就任(現在に至る) 2019年6月 当社取締役(現在に至る)	(注)3	0

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役	古居 祐	1953年6月11日生	1982年8月 当社入社 2002年4月 当社内部監査室長 2012年6月 当社常勤監査役(現在に至る)	(注)4	28
常勤監査役	福井 健司	1960年10月5日生	1983年4月 当社入社 2004年4月 当社東京業務部長 2015年6月 当社業務部(大阪)部長 2020年4月 当社監査役補佐 2020年6月 当社常勤監査役(現在に至る)	(注)4	81
監査役	平井 康博	1956年6月15日生	1988年4月 弁護士登録(現) 1994年4月 山本・平井法律事務所共同設立 2008年1月 平井康博法律事務所開設 2008年6月 当社監査役(現在に至る)	(注)4	-
監査役	樋口 秀明	1971年4月14日生	1994年4月 株式会社日本長期信用銀行 (現株式会社SBI新生銀行) 入社 2006年12月 監査法人トーマツ (現有限責任監査法人トーマツ) 入社 2008年4月 GCAサヴィアングループ株式会 社(現GCA株式会社)入社 2008年7月 公認会計士登録(現) 2011年5月 樋口秀明公認会計士事務所開設 2011年7月 税理士登録(現) 2012年4月 税理士法人イデア共同設立社員就 任(現在に至る) 2012年6月 当社監査役(現在に至る)	(注)4	9
計					945

- (注) 1. 取締役井原慶子、藤井美保代は、社外取締役であります。
2. 監査役平井康博、樋口秀明は、社外監査役であります。
3. 2022年6月29日開催の定時株主総会の終結の時から2年間であります。
4. 2020年6月24日開催の定時株主総会の終結の時から4年間あります。

社外役員の状況

当社は、社外取締役2名及び社外監査役2名を選任しております。社外取締役及び社外監査役の選任にあたりましては、当社の企業統治方針である『ソフト99・コーポレート・ガバナンス・ポリシー』で定めた基準と手続きに基づき、取締役会での審議を経て候補者の選定を行っております。なお、それぞれ選定理由は以下のとおりであります。

社外取締役井原慶子は、モータースポーツ業界において女性レーシングドライバーとして常に新たな挑戦を続けることにより、数多くの実績を残してまいりました。また、自動車メーカーや官公庁、大学という産官学の幅広い分野において自動車産業の発展に関する取り組みを進めるとともに、女性活躍社会を目指す活動の一環として、女性のモータースポーツ参加環境づくりを継続しております。これらの挑戦者としての前向きな姿勢と自動車産業に関する幅広い経験と知見に基づき、当社の成長に資する様々な助言ができると考え、社外取締役としての適切な職務遂行が可能であると判断しております。

社外取締役藤井美保代は、法人/団体向けの各種ビジネス研修や生産性向上・業務改善に関するコンサルティングを行う企業の経営者であり、経営指導に関する幅広い知見から、経営の執行陣や特定の利害関係者の利益に偏重することのない公平公正な判断能力を有しており、社外取締役としての適切な職務遂行が可能であると判断しております。なお、同氏は当社株式400株を保有しており、当社との資本的関係があります。

社外監査役平井康博は、企業法務に精通した弁護士として、公正な立場でコンプライアンス体制の充実や法的リスク等への助言も含め専門的見地から経営を監視し、社外監査役としての適切な職務遂行が可能であると判断しております。

社外監査役樋口秀明は、経営学修士、公認会計士及び税理士として培われた財務知識、見識や豊富な実務経験等から経営を監視し、社外監査役としての適切な職務遂行が可能であると判断しております。なお、同氏は当社株式9,600株を保有しており、当社との資本的関係があります。

社外取締役2名及び社外監査役2名は、会社法で定められた社外役員としての要件を満たしており、かつ直近の株主総会における役員選任以前の5年間に於いて当社から役員報酬以外に多額の金銭その他財産を得ておりません。以上の点から、当社は、社外取締役2名及び社外監査役2名は独立性を有するものと判断し、株式会社東京証券取引所に独立役員として届け出をしております。

社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外役員による監査と内部監査、会計監査、内部統制部門との関係は相互に業務を補い合うことを目的とし、情報交換を行いながら、業務を行っております。

() 社外役員による監督・監査について

常勤監査役及び社外監査役が主体となり毎月定例で開催される監査役会においては、定められた監査項目に従い、様々な社内手続き等についてのガバナンス上の問題点の有無を確認・審議しております。監査役会には必要に応じて社外取締役がオブザーバーとして参加、又は議事録等の情報共有することで、社外役員間の相互の連携に努めております。

() 監査役会と内部監査室・会計監査との連携、内部統制部門との関係

監査役会は内部監査室に対して監査項目の指示・依頼を行い、内部監査室は監査役会にて内部監査業務における検出事項と措置及び事業活動に関する情報について報告と意見交換を行うことで、社内監査機能の充実に努めております。また、監査役会、内部監査室及び会計監査人は、定期的で開催される三様監査連絡会において、三様監査の報告、情報・意見交換を実施し、連携して監査機能の充実に努めております。さらに、監査役会と会計監査人との監査の連携にあたっては、その実効性を担保するため、監査役会と会計監査人の両者間において覚書を締結しております。

内部統制に関しては、全社の役職者による内部統制委員会を設置することで、専門分野の長が配下の問題に常に目を配り、有事の際には委員会をもってその問題に対処する体制としております。内部統制委員会には内部監査室も参加することで、監査役会との情報共有・連携を図ることが可能となっております。

このように、当社における通常運用におけるガバナンスは、各監査担当者がそれぞれの分野並びに協力関係にある部門と相互に連携を取ることによって、漏れなく円滑な業務を行う体制として機能しております。

(3) 【監査の状況】

監査役監査の状況

() 監査役監査の組織、人員及び手続

監査役会は、社外監査役2名を含む4名(2023年6月29日現在)の監査役によって構成しております。監査役会は、取締役の職務の執行を監査しております。なお、社外監査役平井康博は、弁護士の資格を有しており、法務に関する相当程度の見識を、また、樋口秀明は、公認会計士の資格を有しており、財務・会計に関する相当程度の知見を有しております。

監査役会は取締役会開催に先立ち月次で開催される他、必要に応じ随時開催されます。

当社における監査役監査は、監査役会で決定された監査方針及び職務分担等に従い、各事業年度の重点監査項目についてのリスクや課題を検討し、年間の活動計画を定め、各監査項目に対する監査手続を実施しております。

() 監査役会及び監査役の活動状況

当事業年度においては、監査役会を13回開催しており、1回あたりの所要時間は約1時間でした。各監査役の出席状況は次のとおりです。

役職名	氏名	監査役会出席率
常勤監査役	古居 祐	100% (13/13回)
常勤監査役	福井 健司	100% (13/13回)
非常勤監査役(社外監査役)	平井 康博	100% (13/13回)
非常勤監査役(社外監査役)	樋口 秀明	100% (13/13回)

監査役会における主な共有・検討事項

- ・ 監査方針、監査計画及び職務分担
- ・ 内部統制システム、コンプライアンス体制の運用状況
- ・ 計算書類、事業報告等
- ・ 業務及び会社財産の管理状況の調査内容
- ・ 会計監査人に関する評価

常勤監査役及び非常勤監査役の主な活動

- ・ 取締役会に出席し、議事運営、決議内容等を監査し、必要に応じて意見表明を実施。
- ・ グループ会社全社による経営会議や、品質委員会等の社内の重要な会議へ出席
- ・ 重要な決裁書類の閲覧
- ・ 監査役会、内部監査室及び会計監査人による三様監査連絡会へ出席
- ・ 内部監査室との内部統制システム、コンプライアンス体制の運用状況等にかかる情報交換
- ・ 子会社の取締役会への出席
- ・ 会計監査人からの監査計画説明、四半期レビュー報告、監査結果報告、意見交換
- ・ 会計監査人评价の実施
- ・ 実地棚卸の立ち合いの実施

内部監査の状況等

() 内部監査の組織、人員及び手続

内部監査は、内部監査室が担当し、人員2名(2023年6月29日現在)で構成しております。内部監査室は、業務プロセスの有効性及び効率性、財務諸表の信頼性及び関連法規の遵守状況の監査に重点を置き、内部統制システムの充実を目指した業務監査を担当しており、その結果については、内部統制委員会に定期的に報告しております。

() 内部監査、監査役監査及び会計監査の相互連携と内部統制部門との関係

社内の内部監査室による監査と、監査役監査、会計監査、内部統制部門との関係は相互に業務を補い合うことを目的とし、情報交換を行いながら、業務を行っております。

監査役会は、期末において、会計監査人より会計監査及び内部統制監査の手続き及び結果の概要について報告を受け、意見交換を行っております。

内部監査室は監査役会より監査項目の指示・依頼を受け、監査役会にて内部監査業務における検出事項と措置及び事業活動に関する情報について報告と意見交換を行うことで、社内監査機能の充実に努めております。

また、内部監査室、監査役会及び会計監査人は、定期的に三様監査連絡会を開催し、各監査方針・監査計画・監査重点項目等について期初に意見交換を行う他、監査状況について適宜報告を行い、効率かつ実効性の高い各監査のための情報交換を行うことで、互いに連携して監査機能の充実に努めております。会社財産の管理強化の取り組みとしては、中間・期末に会計監査人の実施する棚卸実査に常勤監査役及び内部監査室が立会い、網羅性の高い棚卸実査が適切に実施されていることを確認しております。

内部統制に関しては、全社の役職者による内部統制委員会を設置することで、専門分野の長が担当分野の問題に常に目を配り、有事の際には委員会をもってその問題に対処する体制としております。内部統制委員会には内部監査室も参加することで監査業務上必要となる情報共有・連携を図ることが可能となっております。

このように、当社における通常運用におけるガバナンスは、各監査担当者がそれぞれの分野並びに協力関係にある部門と相互に連携を取ることによって、漏れなく円滑な業務を行える体制として機能しております。

() 内部監査の実効性を確保するための取組

内部監査部門は、取締役会に年2回、監査役会には毎月出席し、報告を行うことで重要なトピックスに関する情報を役員に定期的に報告しております。また、対象項目の状況に応じて、管掌役員に直接報告をすることで、より迅速な連携が可能な体制を整えております。

会計監査の状況

() 監査法人の名称

ひびき監査法人

() 継続監査期間

1999年以降

() 業務を執行した公認会計士の氏名と継続監査期間

氏名	所属する監査法人	継続監査期間
安原 徹	ひびき監査法人	4年
石原 美保	ひびき監査法人	2年

() 補助者の構成

区分	人数
公認会計士	9名
公認会計士試験合格者	1名

() 監査公認会計士等の選定方針と理由

当社は会計監査人の選定において、会計監査の知見において信頼がおける法人であることはもとより、当社の事業内容に深い理解を持ち、一貫性をもって公正な監査業務を行っていただくことが最も重要であると考えております。

ひびき監査法人につきましては、当社が上場準備の段階から、同監査法人の前身であるペガサス監査法人と監査契約を結んでおり、また、当社の業容拡大にあわせた監査体制を適宜整備していただけることなどから、当社の会計監査を受けるに適切な会計監査人であると認識しております。

() 監査公認会計士等の異動に関する事項

当社の監査公認会計士等は次の通り異動しております。

第69期連結会計年度の連結財務諸表及び第69期事業年度の財務諸表
ひびき監査法人
第70期連結会計年度の連結財務諸表及び第70期事業年度の財務諸表
有限責任監査法人トーマツ

なお、臨時報告書に記載した事項は以下のとおりであります。

(1) 当該異動に係る監査公認会計士等の名称

選任する監査公認会計士等の名称
有限責任監査法人トーマツ
退任する監査公認会計士等の名称
ひびき監査法人

(2) 当該異動の年月日

2023年6月29日

(3) 退任する監査公認会計士等が監査公認会計士等となった年月日

2000年6月26日

(4) 退任する監査公認会計士等が直近3年間に作成した監査報告書等における意見等に関する事項

該当事項はありません。

(5) 当該異動の決定又は当該異動に至った理由及び経緯

当社の会計監査人であるひびき監査法人は、2023年6月29日開催予定の第69期定時株主総会終結の時をもって任期満了となります。監査役会は、2023年1月20日に公認会計士・監査審査会より金融庁長官に対し、ひびき監査法人に対して行政処分その他措置を講ずるよう勧告があったことを考慮して、新たな会計監査人の選定も視野に入れ、複数の監査法人の比較検討を行ってまいりました。監査役会が有限責任監査法人トーマツを会計監査人の候補者とした理由は、会計監査人として必要とされる品質管理体制、専門性、独立性、監査体制及び監査報酬等を総合的に勘案した結果、当社の会計監査が適正かつ妥当に行われることを確保する体制を備えているものと判断したためであります。

(6) 上記(5)の理由及び経緯に対する意見

退任する監査公認会計士等の意見
特段の意見はない旨の回答を得ております。
監査役会の意見
妥当であると判断しております。

() 監査役及び監査役会が監査公認会計士等の評価を行った場合、その旨及びその内容

当社の監査役会は、会計監査人の評価を行っております。会計監査人の年間会計監査計画の確認、会計監査人との定期的な会合による意見交換、監査実施状況の報告などを通じて、監査品質の妥当性について適宜確認を行い、年1回、評価調書を作成しております。

評価調書においては、会計監査人の品質管理・不正リスク管理、監査チームの独立性・専門家としての能力・メンバー構成、監査役会や当社経営者とのコミュニケーション、監査時間・監査品質と監査報酬の妥当性等の評価項目を設定しております。

() 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

会計監査人の職務の執行に支障がある場合等その必要がある場合は、監査役会が中心となり、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定いたします。

また、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨とその理由を報告いたします。

さらに、取締役会が、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、会計監査人の解任又は不再任を株主総会の会議の目的とすることを監査役会に請求し、監査役会はその適否を判断したうえで、株主総会に提出する議案の内容を決定いたします。

監査報酬の内容等

() 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	28,500	-	28,500	-
連結子会社	-	-	-	-
計	28,500	-	28,500	-

なお、当社及び連結子会社に対する非監査業務について、該当事項はありません。

() 監査公認会計士等と同一のネットワーク(PKF International)に対する報酬

該当事項はありません。

() その他重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

() 監査報酬の決定方針

当社の公認会計士等に対する監査報酬につきましては、業務を執行する公認会計士の経験、監査の日数、人員、時期等を総合的に勘案して、決定しております。

() 監査役会が監査報酬に同意した理由

報酬額については、当社の定める『ソフト99・コーポレート・ガバナンス・ポリシー』に基づき、当社監査役会が、外部会計監査人との会合による意見交換や監査計画、監査実施状況の報告などを通じ、監査品質と監査報酬の妥当性について確認を行ったうえで、監査報酬に同意しております。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

当社の役員の報酬等の額又はその算定方法に関しましては、『ソフト99・コーポレート・ガバナンス・ポリシー』（以下当方針）で定めた方針と手続きに基づいております。当社では、成果連動報酬制度及び役員退職慰労金制度を採用することにより、短期の業績向上のみに目を向けることなく、長期的な企業価値向上に向けた取り組みに資する仕組みとして、社内規定に基づき運営しております。この各取締役の報酬等の決定方針は、2021年2月19日の取締役会において承認しております。

成果連動部分を含む取締役（社外取締役を除く）の報酬額については、社外取締役・社外監査役の参加する月次定例取締役会において審議される業績や、定性的な施策の計画・実行に関する実績及び成果目標の進捗・達成度合いなどを総合的に勘案し、代表取締役社長と役付取締役がこの結果を踏まえ、インセンティブとして役員報酬額の増減を最終決定しております。

なお、報酬の成果連動部分を決定するための指標については、各取締役の管掌業務の計画進捗について定性的・総合的に評価を行うことが困難なことから、単一的な計数等による指標設定を行っていません。

社外取締役の報酬額については、取締役会での積極的な提言に加え、取締役会以外への会議参加などを通じての当社事業の理解や、提案の状況などを総合的に勘案し、代表取締役と役付取締役が協議のうえ、その額を最終決定しております。

当社の役員の報酬等に関する株主総会の決議年月日は、1998年6月29日であり、取締役の役員報酬の総額は3億円とするものであります。また、監査役の役員報酬等に関する株主総会の決議年月日は、2020年6月24日であり、監査役の役員報酬の総額は5,000万円とするものであります。

上述のように、当社の役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の決定権限を有する者は、代表取締役社長と役付取締役です。この権限を委任した理由として、当社の取締役会は業務執行にかかわる正確な情報提供とその意思決定にかかる時間短縮のために、可能な限り階層を短縮化したコンパクトな組織構築を旨としております。この方針に基づき、業務管掌取締役を中心に取締役会を構成し、社外取締役及び社外監査役が適宜監視・助言する体制を整えることで、各審議内容を妥当性・客観性の観点から決定することが可能となっております。このことから、報酬等の額の決定においても公平性を担保し、適切に実行するためには、全体の業務を俯瞰している代表取締役社長と役付取締役が協議することが最も適していると判断し、委任しております。

当社の役員報酬等のうち、非金銭報酬はありません。

役員区分ごとの報酬額の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (人)
		固定報酬	業績連動報酬	退職慰労金	左記のうち、 非金銭報酬等	
取締役 (社外取締役を除く)	175,485	133,605	21,750	20,130	-	9
監査役 (社外監査役を除く)	32,744	25,664	4,200	2,880	-	2
社外役員	36,880	32,370	2,520	1,990	-	5

(注) 上表には、2022年6月29日開催の第68期定時株主総会終結の時をもって退任した取締役2名および社外取締役1名を含んでおります。

連結報酬等の総額が1億円以上である者の連結報酬等の総額等

該当事項はありません。

使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なもの

該当事項はありません。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、当社グループの各事業におけるステークホルダーである取引先企業の株式の保有について、これを純投資目的以外の政策保有株式と定めております。また、事業上の取引関係にない企業の株式の保有を純投資目的株式として区分しております。政策保有株式については、当社の事業運営における各種取引先との円滑な取引関係の維持・発展を目的として、これを保有しております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

- () 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

政策保有株式の保有については、当社グループの事業成長に必要であるかどうかの観点から、個別株式毎にその保有の適否を判断することを基本としております。

政策保有株式の保有の適否判断については、取締役会において、当社事業運営の観点から、個別株式毎の保有目的と保有による当社グループのメリットを取引の規模や内容等をもとに検証のうえ、新規保有・保有継続・買い増し・処分等の判断を行っております。現在保有している政策保有株式については、その保有が当社にとって事業運営上のメリットがあると判断しております。

なお、当社は、企業の経営方針・経営判断は株主の意向のみを反映するものではなく、顧客・従業員・販売先・仕入先・債権者等、様々なステークホルダーとの利害調整を踏まえて決定されるものと考えております。そのため、政策保有株式の議決権行使については、当該企業が反社会的行為を行っておらず、かつ、株主利益を軽視するような事がない限りにおいては、基本的に当該株式発行会社の提案議案を尊重する方針を採用しております。この方針を踏まえたうえで、最終的な議決権行使については、業務執行において当該企業との取引を担当する営業・企画開発・生産分野の各業務管掌取締役と、管理部門の業務管掌取締役による検証を適宜行い、賛否を決定いたします。

- () 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)
非上場株式	-	-
非上場株式以外の株式	25	2,686,988

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(千円)	株式数の増加の理由
非上場株式	-	-	-
非上場株式以外の株式	2	29,344	事業活動の円滑化、取引関係の維持・強化を目的としております。

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額(千円)
非上場株式	-	-
非上場株式以外の株式	1	5,278

() 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、業務提携等の概要、 定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の 株式の 保有の 有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表 計上額(千円)	貸借対照表 計上額(千円)		
(株)イエローハット	593,456	593,456	ファインケミカル事業における主力代理店。消費財製品及び業務用製品での最大手の取引先。取引関係の維持・発展による中長期的な収益の拡大等を図るため保有しています。(注)1	有
	1,081,870	932,912		
(株)オートバックスセブン	271,512	271,512	ファインケミカル事業における主力代理店。消費財製品及び業務用製品での最大手の取引先。取引関係の維持・発展による中長期的な収益の拡大等を図るため保有しています。(注)1	有
	392,334	365,183		
扶桑化学工業(株)	95,000	95,000	交流を通じて技術的な情報や業界動向等の情報を収集し、今後の事業機会の創出・企業価値向上につなげることを目的として保有しています。(注)1	有
	357,675	428,450		
関西ペイント(株)	143,000	143,000	当社主力商品の主要原料製造元であり、商品開発及び商品の安定供給のため、協力関係の維持、強化を目的として保有しています。(注)1	有
	255,684	282,139		
(株)ニイタカ	71,500	71,500	同社と技術的な共同関係を築き、交流を通じて技術的な情報や業界動向等の情報を収集し、今後の事業拡大・企業価値向上につなげることを目的として保有しています。(注)1	有
	153,010	172,887		
Orange Electronic Co., Ltd.	981,000	900,000	販路共有によるグループ間のシナジー及びTPMSマーケット創出による事業拡大に向けて開発・マーケティング強化のためのアライアンス維持を目的として当該株式を保有しています。なお、株式の分割を実施したことにより株式数が増加しております(注)1	無
	117,092	126,972		
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	81,380	81,380	当企業グループの主要取引銀行であり、資金決済取引等を行っているほか、国際業務・外為取引、業務効率化やM&Aに係る情報提供等、協力関係の維持強化のため、保有しています。(注)1	有
	69,002	61,873		
(株)G-7ホールディングス	35,600	35,600	ファインケミカル事業における主力販売企業。消費財製品及び業務用製品における取引関係の維持・発展による中長期的な収益の拡大等を図るため保有しています。(注)1	無
	51,477	58,882		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、業務提携等の概要、 定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の 株式の 保有の 有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表 計上額(千円)	貸借対照表 計上額(千円)		
アークランズ(株) (注)2	24,000	24,000	ファインケミカル事業における主力販売企業。消費財製品において、ケミカル、補修、ワイパー等、多くのカテゴリでインスタアシェア高く展開。取引関係の維持・発展による中長期的な収益の拡大等を図るため保有しています。(注)1	無
	35,832	36,360		
(株)ホットマン	50,000	50,000	ファインケミカル事業における主力販売企業。冬季用品での販売も多く、消費財製品及び業務用製品における取引関係の維持・発展による中長期的な収益の拡大等を図るため保有しています。(注)1	有
	28,900	28,850		
(株)バッファロー	23,500	-	ファインケミカル事業における主力販売企業。消費財製品及び業務用製品における取引関係の維持・発展による中長期的な収益の拡大等を図るため、当事業年度より新たに保有しています。(注)1	無
	26,179	-		
(株)鳥取銀行	20,900	20,900	当企業グループの主要取引銀行であり、資金調達取引や資金決済取引等を行っているほか、業務効率化やM&Aに係る情報提供等、協力関係の維持強化のため、保有しています。(注)1	有
	23,951	24,891		
DCMホールディングス(株)	14,649	14,649	ファインケミカル事業における主力販売企業。消費財製品において、ケミカル、補修、ワイパー等、多くのカテゴリでインスタアシェア高く展開。取引関係の維持・発展による中長期的な収益の拡大等を図るため保有しています。(注)1	無
	16,919	15,440		
(株)パローホールディングス	7,200	7,200	ファインケミカル事業における主力販売企業。消費財製品において、ケミカル、補修、ワイパー等、多くのカテゴリでインスタアシェア高く展開。取引関係の維持・発展による中長期的な収益の拡大等を図るため保有しています。(注)1	無
	13,867	15,228		
アレンザホールディングス(株)	11,100	11,100	ファインケミカル事業における主力販売企業。消費財製品において、ケミカル、補修、ワイパー等、多くのカテゴリでインスタアシェア高く展開。取引関係の維持・発展による中長期的な収益の拡大等を図るため保有しています。(注)1	無
	10,911	10,811		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、業務提携等の概要、 定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の 株式の 保有の 有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表 計上額(千円)	貸借対照表 計上額(千円)		
(株)エンチャー	10,000	10,000	ファインケミカル事業における主力販売企業。消費財製品において、ケミカル、補修、ワイパー等、多くのカテゴリでインスタアジア高く展開。取引関係の維持・発展による中長期的な収益の拡大等を図るため保有しています。(注)1	無
	10,280	10,060		
大和ハウス工業(株)	3,000	3,000	ファインケミカル事業における主力販売企業。消費財製品において、ケミカル、補修、ワイパー等、多くのカテゴリでインスタアジア高く展開。取引関係の維持・発展による中長期的な収益の拡大等を図るため保有しています。(注)1	無
	9,342	9,603		
コーナン商事(株)	2,783	2,783	ファインケミカル事業における主力販売企業。消費財製品において、ケミカル、補修、ワイパー等、多くのカテゴリでインスタアジア高く展開。取引関係の維持・発展による中長期的な収益の拡大等を図るため保有しています。(注)1	無
	9,030	9,726		
(株)コメリ	2,547	2,547	ファインケミカル事業における主力販売企業。消費財製品において、ケミカル、ワイパー等、多くのカテゴリでインスタアジア高く展開。取引関係の維持・発展による中長期的な収益の拡大等を図るため保有しています。(注)1	無
	6,968	6,696		
(株)オートウェブ	30,000	30,000	ファインケミカル事業における主力販売企業。消費財だけでなく、業務用製品での取り組みも展開。取引関係の維持・発展による中長期的な収益の拡大等を図るため保有しています。(注)1	無
	6,450	3,090		
(株)サンデー	3,993	3,993	ファインケミカル事業における主力販売企業。消費財製品において、ケミカル、補修、ワイパー等、多くのカテゴリでインスタアジア高く展開。取引関係の維持・発展による中長期的な収益の拡大等を図るため保有しています。(注)1	無
	4,931	4,907		
(株)ジュンテンドー	4,764	4,764	ファインケミカル事業における主力販売企業。消費財製品において、ケミカル、補修、ワイパー等、多くのカテゴリでインスタアジア高く展開。取引関係の維持・発展による中長期的な収益の拡大等を図るため保有しています。(注)1	無
	2,758	2,991		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、業務提携等の概要、 定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の 株式の 保有の 有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表 計上額(千円)	貸借対照表 計上額(千円)		
アイエーグループ(株)	360	360	ファインケミカル事業における主力販売 企業。消費財製品及び業務用製品におけ る取引関係の維持・発展による中長期的 な収益の拡大等を図るため保有していま す。(注)1	無
	1,220	1,229		
(株)セキチュー	600	600	ファインケミカル事業における主力販売 企業。消費財製品において、ケミカル、 補修、ワイパー等、多くのカテゴリーで インスタシェア高く展開。取引関係の 維持・発展による中長期的な収益の拡大 等を図るため保有しています。(注)1	有
	736	990		
イオン九州(株)	242	242	ファインケミカル事業における主力販売 企業。消費財製品において、ケミカル、 補修、ワイパー等、多くのカテゴリーで インスタシェア高く展開。取引関係の 維持・発展による中長期的な収益の拡大 等を図るため保有しています。(注)1	無
	563	505		
三洋化成工業(株)	-	1,210	当事業年度において全株売却したため 2023年3月末現在保有しておりません。	無
	-	6,098		

(注)1. 保有効果を定量的に認識することは困難ですが、関係の維持強化等の効果があると判断しております。

2. アークランドサカモト(株)は、2022年9月1日付でアークランズ(株)に商号変更しております。

みなし保有株式

該当事項はありません。

保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

第5【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」といいます。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2022年4月1日から2023年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2022年4月1日から2023年3月31日まで)の財務諸表について、ひびき監査法人により監査を受けております。

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、また会計基準の変更等にも的確に対応できる体制を確保するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、セミナーへの参加等を通じて適宜情報収集を行っております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	20,197,429	20,124,453
受取手形	122,604	98,430
電子記録債権	818,632	1,151,810
売掛金	3,620,840	3,454,773
有価証券	300,160	-
商品及び製品	2,568,882	2,864,380
仕掛品	457,837	529,749
原材料及び貯蔵品	961,457	970,549
その他	310,256	815,286
貸倒引当金	27,104	18,468
流動資産合計	29,330,996	29,990,964
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2 4,857,198	2 6,427,425
機械装置及び運搬具(純額)	825,862	733,960
土地	3 14,891,521	3 14,944,681
リース資産(純額)	24,078	23,283
建設仮勘定	1,248,498	385,324
その他(純額)	202,449	160,406
有形固定資産合計	1 22,049,608	1 22,675,083
無形固定資産		
のれん	485,217	-
その他	154,506	342,354
無形固定資産合計	639,724	342,354
投資その他の資産		
投資有価証券	6,526,778	6,765,969
繰延税金資産	348,268	344,879
その他	369,749	357,125
貸倒引当金	33,996	99,061
投資その他の資産合計	7,210,800	7,368,912
固定資産合計	29,900,133	30,386,350
資産合計	59,231,129	60,377,314

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,390,652	1,595,435
未払法人税等	658,344	466,743
未払金及び未払費用	1,820,273	1,417,979
その他	4,773,996	4,696,617
流動負債合計	4,643,267	4,176,775
固定負債		
長期借入金	-	295,577
繰延税金負債	86,951	112,535
再評価に係る繰延税金負債	3,584,112	3,584,112
役員退職慰労引当金	454,708	367,706
退職給付に係る負債	1,593,516	1,594,901
その他	476,740	473,320
固定負債合計	3,196,029	3,428,154
負債合計	7,839,296	7,604,930
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,310,056	2,310,056
資本剰余金	3,286,444	3,327,417
利益剰余金	46,142,639	47,414,649
自己株式	562,961	576,788
株主資本合計	51,176,178	52,475,334
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,314,279	1,328,964
土地再評価差額金	3,1,192,211	3,1,192,211
為替換算調整勘定	72,385	80,201
退職給付に係る調整累計額	21,201	80,095
その他の包括利益累計額合計	215,654	297,050
純資産合計	51,391,833	52,772,384
負債純資産合計	59,231,129	60,377,314

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
売上高	1 28,435,638	1 30,170,498
売上原価	17,488,685	19,559,493
売上総利益	10,946,953	10,611,005
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	449,702	480,188
販売促進費	285,563	328,635
運賃及び荷造費	888,264	918,962
貸倒引当金繰入額	2,909	59,113
役員報酬及び給料手当	2,648,800	2,583,005
退職給付費用	105,912	106,741
役員退職慰労引当金繰入額	61,663	59,205
減価償却費	175,985	174,230
研究開発費	2 651,204	2 609,460
その他	1,922,276	2,035,066
販売費及び一般管理費合計	7,186,463	7,354,610
営業利益	3,760,489	3,256,395
営業外収益		
受取利息	27,224	24,774
受取配当金	70,098	81,796
貸倒引当金戻入額	1,274	274
助成金収入	66,978	10,479
その他	71,707	68,038
営業外収益合計	237,283	185,363
営業外費用		
支払利息	3	3
手形売却損	51	71
解約違約金	4,893	-
支払補償費	24,341	583
その他	6,135	146
営業外費用合計	35,425	805
経常利益	3,962,347	3,440,953
特別利益		
固定資産売却益	3 10,395	3 9,042
投資有価証券売却益	-	226
特別利益合計	10,395	9,268
特別損失		
固定資産除却損	4 4,538	4 13,835
減損損失	5 11,313	5 353,166
特別損失合計	15,852	367,002
税金等調整前当期純利益	3,956,890	3,083,220
法人税、住民税及び事業税	1,180,368	1,023,499
法人税等調整額	21,048	4,083
法人税等合計	1,201,416	1,019,416
当期純利益	2,755,473	2,063,803
非支配株主に帰属する当期純利益	-	-
親会社株主に帰属する当期純利益	2,755,473	2,063,803

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
当期純利益	2,755,473	2,063,803
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	227,148	14,684
為替換算調整勘定	17,001	7,816
退職給付に係る調整額	32,344	58,894
その他の包括利益合計	177,801	81,395
包括利益	2,577,671	2,145,199
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	2,577,671	2,145,199
非支配株主に係る包括利益	-	-

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,310,056	3,286,444	44,240,895	357,848	49,479,548
会計方針の変更による累積的影響額			57,536		57,536
会計方針の変更を反映した当期首残高	2,310,056	3,286,444	44,183,358	357,848	49,422,011
当期変動額					
剰余金の配当			797,748		797,748
親会社株主に帰属する当期純利益			2,755,473		2,755,473
自己株式の取得				237,284	237,284
自己株式の処分				32,170	32,170
土地再評価差額金の取崩			1,555		1,555
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	1,959,280	205,113	1,754,167
当期末残高	2,310,056	3,286,444	46,142,639	562,961	51,176,178

	その他の包括利益累計額				
	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計
当期首残高	1,541,428	1,190,656	55,383	11,143	395,011
会計方針の変更による累積的影響額					
会計方針の変更を反映した当期首残高	1,541,428	1,190,656	55,383	11,143	395,011
当期変動額					
剰余金の配当					
親会社株主に帰属する当期純利益					
自己株式の取得					
自己株式の処分					
土地再評価差額金の取崩					
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	227,148	1,555	17,001	32,344	179,357
当期変動額合計	227,148	1,555	17,001	32,344	179,357
当期末残高	1,314,279	1,192,211	72,385	21,201	215,654

	純資産合計
当期首残高	49,874,560
会計方針の変更による累積的影響額	57,536
会計方針の変更を反映した当期首残高	49,817,023
当期変動額	
剰余金の配当	797,748
親会社株主に帰属する当期純利益	2,755,473
自己株式の取得	237,284
自己株式の処分	32,170
土地再評価差額金の取崩	1,555
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	179,357
当期変動額合計	1,574,809
当期末残高	51,391,833

当連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,310,056	3,286,444	46,142,639	562,961	51,176,178
会計方針の変更による累積的影響額					-
会計方針の変更を反映した当期首残高	2,310,056	3,286,444	46,142,639	562,961	51,176,178
当期変動額					
剰余金の配当			791,793		791,793
親会社株主に帰属する当期純利益			2,063,803		2,063,803
自己株式の取得				323,757	323,757
自己株式の処分		40,972		309,931	350,903
土地再評価差額金の取崩					
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	40,972	1,272,009	13,826	1,299,155
当期末残高	2,310,056	3,327,417	47,414,649	576,788	52,475,334

	その他の包括利益累計額				
	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計
当期首残高	1,314,279	1,192,211	72,385	21,201	215,654
会計方針の変更による累積的影響額					
会計方針の変更を反映した当期首残高	1,314,279	1,192,211	72,385	21,201	215,654
当期変動額					
剰余金の配当					
親会社株主に帰属する当期純利益					
自己株式の取得					
自己株式の処分					
土地再評価差額金の取崩					
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	14,684	-	7,816	58,894	81,395
当期変動額合計	14,684	-	7,816	58,894	81,395
当期末残高	1,328,964	1,192,211	80,201	80,095	297,050

	純資産合計
当期首残高	51,391,833
会計方針の変更による累積的影響額	-
会計方針の変更を反映した当期首残高	51,391,833
当期変動額	
剰余金の配当	791,793
親会社株主に帰属する当期純利益	2,063,803
自己株式の取得	323,757
自己株式の処分	350,903
土地再評価差額金の取崩	-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	81,395
当期変動額合計	1,380,551
当期末残高	52,772,384

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	3,956,890	3,083,220
減価償却費	765,228	802,858
減損損失	11,313	353,166
のれん償却額	142,740	142,740
貸倒引当金の増減額(は減少)	10,145	55,715
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	61,663	87,002
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	90,281	86,738
受取利息及び受取配当金	97,323	106,571
支払利息	3	3
投資有価証券売却損益(は益)	-	226
固定資産除却損	1,229	2,936
売上債権の増減額(は増加)	13,672	139,727
棚卸資産の増減額(は増加)	548,979	376,026
仕入債務の増減額(は減少)	25,945	204,511
未払金及び未払費用の増減額(は減少)	119,805	55,267
その他の流動資産の増減額(は増加)	35,042	450,820
その他の流動負債の増減額(は減少)	440	72,820
その他	15,462	162,564
小計	4,316,316	3,716,530
利息及び配当金の受取額	101,077	105,635
利息の支払額	3	3
法人税等の支払額	1,326,471	1,202,822
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,090,918	2,619,340
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額(は増加)	217,045	4,089
有形固定資産の取得による支出	1,332,366	1,960,973
有形固定資産の売却による収入	21,077	10,638
無形固定資産の取得による支出	40,911	236,379
投資有価証券の取得による支出	1,118,527	1,125,868
投資有価証券の売却及び償還による収入	1,500,934	1,210,215
その他	16,004	78,667
投資活動によるキャッシュ・フロー	736,743	2,176,945
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	817,444	791,571
長期借入れによる収入	-	323,757
長期借入金の返済による支出	46,376	28,180
ファイナンス・リース債務の返済による支出	51,514	47,231
自己株式の取得による支出	237,308	323,757
自己株式の処分による収入	32,170	350,903
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,120,473	516,079
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,520	1,569
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,236,222	72,116
現金及び現金同等物の期首残高	18,649,552	19,885,775
現金及び現金同等物の期末残高	19,885,775	19,813,659

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 9社

子会社は全て連結されております。

連結子会社は、次のとおりであります。

上海速特99化工有限公司(中国)

アイオン(株)

アスモ(株)

(株)ソフト99オートサービス

(株)くらし企画

(株)オレンジ・ジャパン

(株)アンテリア

(株)ハネロン

アズテック(株)

連結の範囲の変更

前連結会計年度において連結子会社であったアライズ(株)については、2022年4月1日付で当社の連結子会社であるアスモ(株)を存続会社とする吸収合併により消滅したため、当連結会計年度の期首より連結の範囲から除外しております。

2. 持分法の適用に関する事項

非連結子会社及び関連会社はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、上海速特99化工有限公司の決算日は、2022年12月31日であります。連結財務諸表の作成に当たっては、同決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、2023年1月1日から2023年3月31日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ 有価証券

その他有価証券

- ・市場価格のない株式等以外のもの

時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は総平均法により算定)を採用しております。

- ・市場価格のない株式等

総平均法による原価法

ロ 棚卸資産

商品及び製品・仕掛品・原材料及び貯蔵品

当社及び国内連結子会社は主として総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)を、また、在外連結子会社は移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ 有形固定資産(リース資産を除く)

当社及び国内連結子会社は主として定率法を、また、在外連結子会社は当該国の会計基準の規定に基づく定額法を採用しております。

ただし、当社及び国内連結子会社は1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

ロ 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

ハ リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

イ 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

ロ 役員退職慰労引当金

当社及び一部の連結子会社の役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

イ 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

ロ 数理計算上の差異、過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（主として10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌連結会計年度から費用処理しております。

過去勤務費用については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（主として10年）による定額法により費用処理することとしております。

ハ 未認識数理計算上の差異の会計処理方法

未認識数理計算上の差異については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

二 国内連結子会社については、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

主要な事業における主な履行義務の内容及び収益を認識する通常の時点は、以下のとおりであります。

イ 商品及び製品の販売

顧客との契約において受注した商品及び製品を引き渡す義務を負っており、履行義務を充足する時点は、通常商品及び製品の引渡時であることから、当該製品等の引渡時点で収益を認識しております。なお、一部の国内販売については、出荷時から当該製品等の支配が顧客に移転されるときまでの期間は通常の期間であるため、出荷時点で収益を認識しております。また、当該製品等の販売において、返品に応じる義務を負っており、顧客からの返品が発生することが予想されます。この将来予想される返品部分に関しては、過去の実績に基づいた将来発生しうると考えられる予想返金額により算定し、販売時に収益を認識せず、返金負債を計上しております。

ロ サービスの提供

顧客との契約において受注したサービスを実施する義務を負っており、履行義務を充足する時点は、通常サービスの実施完了時点であることから、当該サービスの実施完了時点で収益を認識しております。

ハ 業務受託

顧客との契約において一定期間にわたり役務の提供を行う義務を負っており、当該契約については、一定期間にわたる役務の提供により履行義務が充足されるため、顧客との契約に係る取引額を契約期間にわたり均等に収益を認識しております。

上記契約に定める価格から値引き及びリベートを控除した金額で収益を算定しております。

また、上記取引については、通常、短期のうちに支払期日が到来し、契約に重要な金融要素を含んでおりません。

(6) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外連結子会社の資産及び負債並びに収益及び費用は、在外連結子会社の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は、純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

(7) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、5年間の定額法により償却を行っております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(9) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

ファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準

リース料受取時に売上高と売上原価を計上する方法によっております。

(重要な会計上の見積り)

1. 繰延税金資産の回収可能性

(1) 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

	前連結会計年度	当連結会計年度
繰延税金資産(相殺前)	874,954千円	853,216千円

(2) その他の情報

繰延税金資産は、税務上の繰越欠損金のうち未使用のもの及び将来減算一時差異を利用できる課税所得が生じる可能性が高い範囲内で認識しております。課税所得が生じる可能性の判断においては、将来獲得しうる課税所得の時期及び金額を合理的に見積り、金額を算定しております。これらの見積りは将来の不確実な経済状況及び会社の経営状況の影響を受け、実際に生じた時期及び金額が見積りと異なった場合、翌連結会計年度以降の連結財務諸表において認識する金額に重要な影響を与える可能性があります。

2. 固定資産の減損

(1) 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

	前連結会計年度	当連結会計年度
減損損失	11,313千円	353,166千円

(2) その他の情報

固定資産(のれんを含む)に減損の兆候が存在する場合には、当該資産の将来キャッシュ・フローに基づき、減損の要否の判定を実施しております。減損の要否に係る判定単位であるキャッシュ・フロー生成単位については、他の資産又は資産グループのキャッシュ・インフローから概ね独立したキャッシュ・インフローを生成させるものとして識別される資産グループの最小単位としております。

固定資産の減損の要否の判定において、将来キャッシュ・フロー、割引率及び長期成長率等について一定の仮定を設定しております。これらの仮定は将来の不確実な経済状況及び会社の経営状況の影響を受け、翌連結会計年度以降の連結財務諸表に重要な影響を与える可能性があります。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当連結会計年度の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる当連結会計年度に係る連結財務諸表への影響はありません。

(表示方法の変更)

(連結キャッシュ・フロー計算書)

前連結会計年度において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めておりました「貸倒引当金の増減額」については、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えをおこなっております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」に表示していた「その他」5,316千円は、「貸倒引当金の増減額」10,145千円、「その他」15,462千円として組替えております。

前連結会計年度において、「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めておりました「無形固定資産の取得による支出」については、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えをおこなっております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「投資活動によるキャッシュ・フロー」に表示していた「その他」24,906千円は、「無形固定資産の取得による支出」40,911千円、「その他」16,004千円として組替えております。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引)

当社は、2022年11月25日開催の取締役会決議に基づき、従業員の福利厚生充実及び当社の企業価値向上に係るインセンティブの付与を目的として、「従業員持株会支援信託E S O P」(以下、「本制度」といいます。)を導入しております。

(1)取引の概要

本制度は、「ソフト99従業員持株会」(以下、「本持株会」といいます。)に加入するすべての従業員を対象に、当社株式の株価上昇メリットを還元するインセンティブ・プランです。

本制度の導入にあたり、本持株会に加入する従業員のうち一定の要件を充足する者を受益者とする信託を設定し、本信託は、信託期間中に本持株会が取得すると見込まれる数の当社株式を予め一括して取得します。その後、本信託は、当社株式を毎月一定日に本持株会に売却します。信託終了時に、株価の上昇により信託収益がある場合には、受益者たる従業員に対して金銭が分配されます。株価の下落により譲渡損失が生じ信託財産に係る債務が残る場合には、責任財産限定特約付金銭消費貸借契約の保証条項に基づき、当社が銀行に対して一括して弁済することとなります。

(2)信託契約の概要

委託者	当社
受託者	株式会社りそな銀行(再信託受託者 株式会社日本カストディ銀行)
信託契約日	2022年12月8日
信託の期間	2022年12月8日～2025年12月30日(予定)

(3)信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により純資産の部に自己株式として計上しております。当連結会計年度末における当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、296,611千円及び267,700株であります。

(4)総額法の適用により計上された借入金の帳簿価額

当連結会計年度末 295,577千円

(会計上の見積りを行う上での新型コロナウイルス感染症の影響)

繰延税金資産の回収可能性及び固定資産に関する減損損失の認識の判断に関する会計上の見積りを行うにあたり、新型コロナウイルス感染症においてはその動向については未だ不透明な状況にはあるものの、現時点においては当社グループの企業活動に与える影響は軽微な範囲に留まると仮定しております。

なお、現時点で入手可能な情報に基づいて最善の見積りを行っておりますが、今後の実際の推移がこの仮定と乖離する場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

(連結貸借対照表関係)

1 有形固定資産の減価償却累計額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
減価償却累計額	15,903,371千円	16,507,782千円

2 有形固定資産に係る国庫補助金の受入れによる圧縮記帳累計額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
建物及び構築物	9,782千円	9,782千円

3 「土地の再評価に関する法律」(平成10年3月31日公布法律第34号)及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」(平成13年3月31日公布法律第19号)に基づき、事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

- ・再評価の方法...「土地の再評価に関する法律施行令」(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第1項に定める近隣の公示地価に基づき、合理的な調整を行って算出しております。
- ・再評価を行った年月日...2002年3月31日

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
再評価を行った土地の期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額	64,395千円	116,415千円
上記差額のうち賃貸等不動産に係るもの	621,853	679,074

4 その他のうち、契約負債の金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
契約負債	272,213千円	258,867千円

(連結損益計算書関係)

1 顧客との契約から生じる収益

売上高については、顧客との契約から生じる収益及びそれ以外の収益を区分して記載しておりません。顧客との契約から生じる収益の金額は、連結財務諸表「注記事項(セグメント情報等)」に記載しております。

2 一般管理費に含まれる研究開発費の総額

前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
651,204千円	609,460千円

3 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
機械装置及び運搬具 10,395千円	機械装置及び運搬具 9,042千円

4 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
建物及び構築物 965千円	建物及び構築物 2,093千円
機械装置及び運搬具 203	機械装置及び運搬具 763
工具、器具及び備品 60	工具、器具及び備品 79
撤去費用等 3,308	撤去費用等 10,899
計 4,538	計 13,835

5 減損損失

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

場所	用途	種類
岐阜県高山市	遊休資産	土地
茨城県古河市	遊休資産	土地
大阪府大阪市他	遊休資産	その他無形固定資産

当社グループは、主として継続的に収支の把握がなされる事業内容又は事業所単位に基づき資産のグルーピングを行い、賃貸用資産及び使用の見込みがない遊休資産は原則として物件ごとに個別のグループとし、独立したキャッシュ・フローを生み出さない本社及び厚生施設等については各社の共用資産としております。収益性が低下し投資の回収が見込めなくなった資産グループについて帳簿価額を回収可能価額まで減少し、当該減少額を減損損失として11,313千円を特別損失に計上しております。その内訳は、土地7,741千円、その他無形固定資産3,572千円であります。

なお、回収可能価額は、土地については、固定資産税評価額等に基づく正味売却価額により測定し、その他無形固定資産の電話加入権については、市場価格等に基づく正味売却価額により測定しております。

当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

場所	用途	種類
極楽湯尼崎店(兵庫県)	温浴店舗 (温浴設備及び飲食設備等)	建物及び構築物、その他
大阪府枚方市	物販店舗 (簡易装備等)	建物及び構築物、その他
兵庫県尼崎市	介護事業所 (運動器具)	機械装置及び運搬具、その他
岐阜県高山市	遊休資産	土地
-	その他	のれん

当社グループは、主として継続的に収支の把握がなされる事業内容又は事業所単位に基づき資産のグルーピングを行い、賃貸用資産及び使用の見込みがない遊休資産は原則として物件ごとに個別のグループとし、独立したキャッシュ・フローを生み出さない本社及び厚生施設等については各社の共用資産としております。収益性が低下し投資の回収が見込めなくなった資産グループについて帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額353,166千円を減損損失として特別損失に計上しております。その内訳は、建物及び構築物6,493千円、機械装置及び運搬具493千円、その他3,050千円、土地652千円、のれん342,476千円であります。

なお、回収可能価額は、土地については、固定資産税評価額等に基づく正味売却価額により測定しております。その他の資産については、使用価値により測定しており、使用価値は零として評価しております。

また、連結子会社であるアズテック株式会社の株式取得時に発生したのれんに関して、当初想定していた収益の達成は困難であると判断したことから、未償却残高を全額減損し、減損損失を認識しております。

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	329,200千円	21,508千円
組替調整額	-	226
税効果調整前	329,200	21,282
税効果額	102,052	6,597
その他有価証券評価差額金	227,148	14,684
為替換算調整勘定：		
当期発生額	17,001	7,816
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	36,705	78,012
組替調整額	10,170	7,341
税効果調整前	46,876	85,353
税効果額	14,531	26,459
退職給付に係る調整額	32,344	58,894
その他の包括利益合計	177,801	81,395

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(千株)	当連結会計年度 増加株式数(千株)	当連結会計年度 減少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	22,274	-	-	22,274
合計	22,274	-	-	22,274
自己株式				
普通株式(注)	428	185	32	581
合計	428	185	32	581

(注) 1. 普通株式の自己株式の株式数の増加185千株は、市場買付による増加及び単元未満株式の買取りによる増加であり、減少32千株は、「従業員持株会支援信託E S O P」における従業員持株会への当社株式の売却による減少であります。

2. 「従業員持株会支援信託E S O P」に係る信託口が保有する当社株式は、当連結会計年度期首株式数に32千株含まれております。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2021年6月29日 定時株主総会	普通株式	404,754	18.5	2021年3月31日	2021年6月30日
2021年11月4日 取締役会	普通株式	392,994	18.0	2021年9月30日	2021年12月1日

(注) 2021年3月31日基準日の配当金の総額には、「従業員持株会支援信託E S O P」に係る信託口が保有する当社株式32,300株に対する配当金597千円が含まれております。

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2022年6月29日 定時株主総会	普通株式	390,473	利益剰余金	18.0	2022年3月31日	2022年6月30日

当連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数（千株）	当連結会計年度 増加株式数（千株）	当連結会計年度 減少株式数（千株）	当連結会計年度末 株式数（千株）
発行済株式				
普通株式	22,274	-	-	22,274
合計	22,274	-	-	22,274
自己株式				
普通株式（注）	581	292	316	557
合計	581	292	316	557

- （注）1. 普通株式の自己株式の株式数の増加292千株は、「従業員持株会支援信託E S O P」に係る信託口による当社株式の取得による増加であります。
2. 普通株式の自己株式の株式数の減少316千株は、「従業員持株会支援信託E S O P」に係る信託口に対する自己株式の処分による減少292千株、「従業員持株会支援信託E S O P」における従業員持株会への当社株式の売却による減少24千株であります。
3. 「従業員持株会支援信託E S O P」に係る信託口が保有する当社株式は、当連結会計年度末株式数に267千株含まれております。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
2022年6月29日 定時株主総会	普通株式	390,473	18.0	2022年3月31日	2022年6月30日
2022年11月4日 取締役会	普通株式	401,320	18.5	2022年9月30日	2022年12月1日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	配当の原資	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
2023年6月29日 定時株主総会	普通株式	417,718	利益剰余金	19.0	2023年3月31日	2023年6月30日

（注）2023年3月31日基準日の配当金の総額には、「従業員持株会支援信託E S O P」に係る信託口が保有する当社株式267,700株に対する配当金5,086千円が含まれております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
現金及び預金勘定	20,197,429千円	20,124,453千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	311,653	310,794
現金及び現金同等物	19,885,775	19,813,659

(リース取引関係)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1)金融商品に対する取組方針

当社グループは、余裕資金については安全性の高い預金及び有価証券で運用し、投機的な取引は行わない方針であります。

(2)金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形、電子記録債権、及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。

有価証券及び投資有価証券は、主に債券及び業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが1～4ヶ月以内の支払期日であります。

(3)金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、与信管理規程に従い、営業債権について、各事業部門における営業管理部門が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、当社の与信管理規程に準じて、同様の管理を行っております。

債券は、有価証券管理規程に従い、格付の高い債券のみを対象としているため、信用リスクは僅少であります。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

有価証券及び投資有価証券については、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握し、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社は、各部門及び各連結子会社からの報告に基づき経理部門が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4)金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。「現金及び預金」、「受取手形」、「電子記録債権」、「売掛金」、「支払手形及び買掛金」、「未払法人税等」及び「未払金及び未払費用」については、現金であること、及び短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

前連結会計年度（2022年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
有価証券及び投資有価証券 (*1)	6,826,853	6,826,853	-
資産計	6,826,853	6,826,853	-

(*1) 市場価格のない株式等

区分	前連結会計年度(千円)
非上場株式	84

市場価格のない株式であることから、上表の「有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度（2023年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
投資有価証券 (*1)	6,765,884	6,765,884	-
資産計	6,765,884	6,765,884	-
長期借入金	295,577	295,577	-
負債計	295,577	295,577	-

(*1) 市場価格のない株式等

区分	当連結会計年度(千円)
非上場株式	84

市場価格のない株式であることから、上表の「投資有価証券」には含めておりません。

(注) 1. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度（2022年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	20,197,429	-	-	-
受取手形	122,604	-	-	-
電子記録債権	818,632	-	-	-
売掛金	3,620,840	-	-	-
有価証券及び投資有価証券 その他有価証券のうち満期 があるもの				
(1) 国債・地方債等	-	-	-	-
(2) 社債	300,000	700,500	1,100,000	1,300,000
(3) その他	-	-	-	-
合計	25,059,506	700,500	1,100,000	1,300,000

当連結会計年度（2023年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	20,124,453	-	-	-
受取手形	98,430	-	-	-
電子記録債権	1,151,810	-	-	-
売掛金	3,454,773	-	-	-
有価証券及び投資有価証券 その他有価証券のうち満期 があるもの				
(1) 国債・地方債等	-	-	-	-
(2) 社債	-	1,000,000	700,000	1,700,000
(3) その他	-	-	-	-
合計	24,829,467	1,000,000	700,000	1,700,000

（注）2．長期借入金、リース債務及びその他有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度（2022年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
リース債務	46,074	36,872	16,700	8,373	4,082	-
その他有利子負債	-	-	-	-	-	160,919
合計	46,074	36,872	16,700	8,373	4,082	160,919

当連結会計年度（2023年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	-	-	295,577	-	-	-
リース債務	41,492	21,590	12,702	7,625	3,196	278
その他有利子負債	-	-	-	-	-	168,606
合計	41,492	21,590	308,280	7,625	3,196	168,884

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品

前連結会計年度(2022年3月31日)

区分	時価(千円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券及び投資有価証券				
其他有価証券				
株式	2,616,780	-	-	2,616,780
債券	-	4,110,093	-	4,110,093
その他	-	99,980	-	99,980
資産計	2,616,780	4,210,073	-	6,826,853

当連結会計年度(2023年3月31日)

区分	時価(千円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券				
其他有価証券				
株式	2,686,988	-	-	2,686,988
債券	-	3,978,896	-	3,978,896
その他	-	100,000	-	100,000
資産計	2,686,988	4,078,896	-	6,765,884

(2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

前連結会計年度(2022年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(2023年3月31日)

区分	時価(千円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
長期借入金	-	295,577	-	295,577
負債計	-	295,577	-	295,577

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

有価証券及び投資有価証券

上場株式、及び社債等は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。一方で、当社が保有している社債等は、市場での取引頻度が低く、活発な市場における相場価格とは認められないため、その時価をレベル2の時価に分類しております。

長期借入金

変動金利によるものであり、短期間で市場金利を反映するため、時価は帳簿価額に近似することから当該帳簿価額によっており、レベル2の時価に分類しております。

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(2022年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(千円)	取得原価 (千円)	差 額 (千円)
連結貸借対照表計上 額が取得原価を超え るもの	(1) 株式	2,577,463	619,970	1,957,493
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	700,750	699,891	858
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	3,278,213	1,319,862	1,958,351
連結貸借対照表計上 額が取得原価を超え ないもの	(1) 株式	39,316	59,737	20,420
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	3,409,343	3,442,500	33,157
	その他	-	-	-
	(3) その他	99,980	100,000	20
	小計	3,548,640	3,602,237	53,597
	合計	6,826,853	4,922,100	1,904,753

(注) 非上場株式等(連結貸借対照表計上額 84千円)については、市場価格のない株式であることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(2023年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(千円)	取得原価 (千円)	差 額 (千円)
連結貸借対照表計上 額が取得原価を超え るもの	(1) 株式	2,648,587	644,262	2,004,324
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	400,036	398,685	1,350
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	3,048,623	1,042,948	2,005,674
連結貸借対照表計上 額が取得原価を超え ないもの	(1) 株式	38,401	59,737	21,335
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	3,578,860	3,637,163	58,303
	その他	-	-	-
	(3) その他	100,000	100,000	-
	小計	3,717,261	3,796,900	79,639
	合計	6,765,884	4,839,849	1,926,035

(注) 非上場株式等(連結貸借対照表計上額 84千円)については、市場価格のない株式であることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

種類	売却額(千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
(1) 株式	5,323	226	-
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合計	5,323	226	-

(デリバティブ取引関係)

当社グループは、デリバティブ取引を全く利用していないため、該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社グループは、確定給付型の制度として、退職一時金制度及び確定給付企業年金制度を採用するとともに、確定拠出型の制度として確定拠出企業年金制度を採用しております。また、一部の連結子会社は、複数事業主制度の企業年金制度に加入しており、自社の拠出に対応する年金資産の金額を合理的に算定できないことから、確定拠出と同様の会計処理を実施しております。当該企業年金制度については、重要性が乏しいため、要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に係る注記を省略しております。

なお、一部の連結子会社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
退職給付債務の期首残高	2,227,919千円	2,291,013千円
勤務費用	168,699	168,529
利息費用	3,784	5,706
数理計算上の差異の発生額	27,164	62,400
退職給付の支払額	82,225	91,596
退職給付債務の期末残高	2,291,013	2,311,252

一部の連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
年金資産の期首残高	677,809千円	697,497千円
期待運用収益	2,711	2,789
数理計算上の差異の発生額	9,541	15,612
事業主からの拠出額	47,330	40,352
退職給付の支払額	39,894	39,901
年金資産の期末残高	697,497	716,351

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(2022年3月31日)	(2023年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	867,743千円	827,414千円
年金資産	697,497	716,351
	170,245	111,063
非積立型制度の退職給付債務	1,423,270	1,483,837
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,593,516	1,594,901
退職給付に係る負債	1,593,516	1,594,901
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,593,516	1,594,901

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
勤務費用	168,699千円	168,529千円
利息費用	3,784	5,706
期待運用収益	2,711	2,789
数理計算上の差異の費用処理額	10,170	7,341
確定給付制度に係る退職給付費用	179,943	178,786

簡便法で計算した退職給付費用は、勤務費用に含めております。

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
数理計算上の差異	46,876千円	85,353千円
合 計	46,876	85,353

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
未認識数理計算上の差異	30,726千円	116,080千円
合 計	30,726	116,080

(7) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
債券	15%	15%
株式	10	9
一般勘定	74	75
その他	1	1
合 計	100	100

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
割引率	0.47%	0.73%
長期期待運用収益率	0.40%	0.40%
一時金選択率	70%	70%

3. 確定拠出制度に関する注記

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度35,352千円、当連結会計年度35,730千円です。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の主な発生原因別の内訳

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
繰延税金資産		
未払費用	197,325	188,872
未払事業税	42,955	35,060
貸倒引当金	14,210	12,383
未実現利益	11,111	9,141
棚卸資産評価損	4,663	24,544
税務上の繰越欠損金(注)	216,850	188,236
減損損失	579,572	539,079
退職給付に係る負債	493,989	494,419
役員退職慰労引当金	140,959	113,989
土地評価差額	72,033	72,033
ゴルフ会員権評価損	14,024	14,024
返金負債	71,842	67,989
その他	33,994	27,800
繰延税金資産小計	1,893,533	1,787,572
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額(注)	213,834	186,792
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額小計	804,744	747,563
評価性引当額小計	1,018,579	934,355
繰延税金資産合計	874,954	853,216
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	590,499	597,071
返品資産	23,137	23,802
繰延税金負債合計	613,637	620,873
繰延税金資産の純額	261,317	232,343

(注) 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

前連結会計年度(2022年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)	合計 (千円)
税務上の繰越 欠損金(1)	26,695	43,926	26,988	28,934	29,684	60,621	216,850
評価性引当額	23,678	43,926	26,988	28,934	29,684	60,621	213,834
繰延税金資産	3,016	-	-	-	-	-	(2) 3,016

(1) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

(2) 当該繰延税金資産を計上した税務上の繰越欠損金は、将来の課税所得の見込みにより回収可能と判断しております。

当連結会計年度(2023年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)	合計 (千円)
税務上の繰越 欠損金(1)	37,920	27,186	29,014	29,684	-	64,431	188,236
評価性引当額	36,476	27,186	29,014	29,684	-	64,431	186,792
繰延税金資産	1,444	-	-	-	-	-	(2) 1,444

(1) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

(2) 当該繰延税金資産を計上した税務上の繰越欠損金は、将来の課税所得の見込みにより回収可能と判断しております。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別内訳

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
		(%)
法定実効税率		31.0
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	法定実効税率と税効果会	0.5
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	計適用後の法人税等の負担	0.1
住民税均等割	率との間の差異が法定実効	0.8
税額控除	税率の100分の5以下である	3.1
評価性引当額の増減	ため注記を省略しておりま	0.6
のれん償却額等	す。	4.9
その他		0.3
税効果会計適用後の法人税等の負担率		<u>33.1</u>

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

当社及び一部の連結子会社では、大阪府、東京都及びその他の地域において、賃貸収益を得ることを目的として賃貸オフィスビルや賃貸商業施設を所有しております。なお、国内の賃貸オフィスビル等については、当社及び一部の連結子会社が使用しているため、賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産としております。

これら賃貸等不動産及び賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産に関する連結貸借対照表計上額、当連結会計年度増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
賃貸等不動産		
連結貸借対照表計上額		
期首残高	3,585,399	1,731,772
期中増減額	1,853,626	26,748
期末残高	1,731,772	1,705,023
期末時価	2,207,814	2,228,984
賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産		
連結貸借対照表計上額		
期首残高	3,350,602	5,080,588
期中増減額	1,729,985	73,265
期末残高	5,080,588	5,007,322
期末時価	5,020,358	4,847,841

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。

2. 期末の時価は、以下によっております。

国内の不動産については、主に「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額(指標等を用いて調整を行ったものを含む。)であります。

また、賃貸等不動産及び賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産に関する損益は、次のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
賃貸等不動産		
賃貸収益	154,759	151,463
賃貸費用	64,530	71,466
差額	90,229	79,996
その他(売却損益等)	-	-
賃貸等不動産として使用される部分 を含む不動産		
賃貸収益	252,394	240,182
賃貸費用	119,063	125,117
差額	133,331	115,065
その他(売却損益等)	-	-

(注) 賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産には、サービスの提供及び経営管理として当社及び一部の連結子会社が使用している部分も含まれるため、当該部分の賃貸収益は、計上されておりません。なお、当該不動産に係る費用(減価償却費、修繕費、保険料、租税公課等)については、賃貸費用に含まれております。

(収益認識関係)

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、「注記事項(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)4.会計方針に関する事項(5)重要な収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当連結会計年度末において存在する顧客との契約から翌連結会計年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

(1) 契約残高

顧客との契約から生じた債権、契約資産及び契約負債の残高は以下のとおりであります。

(単位:千円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
顧客との契約から生じた債権(期首残高)	4,493,151	4,514,208
顧客との契約から生じた債権(期末残高)	4,514,208	4,661,627
契約資産(期首残高)	-	-
契約資産(期末残高)	-	-
契約負債(期首残高)	240,658	272,213
契約負債(期末残高)	272,213	258,867

契約負債は、主に自動車教習事業の教習料等、契約に基づいて顧客から受け取った前受金に関するものであります。契約負債は収益の認識に伴い取り崩されます。

前連結会計年度に認識された収益の額のうち期首現在の契約負債残高に含まれていた額は188,147千円であります。

当連結会計年度に認識された収益の額のうち期首現在の契約負債残高に含まれていた額は221,476千円であります。

(2) 残存履行義務に配分した取引価格

当社グループにおいては、予想契約期間が1年を超える重要な契約がないため、記載を省略しております。また、顧客との契約から生じる対価の中に、取引価格に含まれていない重要な金額はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、自動車用化学製品の製造販売のほか複数の業種にわたる事業を営んでおり、業種別に区分された事業ごとに事業計画を立案、業績評価や投資意思決定をしております。したがって、当社グループの事業セグメントは、当該業種別に区分された主たる事業別のセグメントによって識別しており、「ファインケミカル事業」「ポラスマテリアル事業」「サービス事業」及び「不動産関連事業」の4つを報告セグメントとしております。

「ファインケミカル事業」は主に、自動車用化学製品の製造及び販売の事業、TPMSの企画開発販売事業及び電子機器・ソフトウェア関連の製品・サービス開発を行っております。

「ポラスマテリアル事業」は主に、ポリビニルアルコール等の精密多孔質体の製造・販売及び病院施設向け医療・衛生管理用品の企画・販売の事業を行っております。

「サービス事業」は主に、自動車整備・钣金、自動車教習、生活用品企画販売の各事業を行っております。

「不動産関連事業」は主に、自社所有物件の賃貸並びにそれらを利用した温浴事業と介護予防支援事業を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表の作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部売上高又は振替高は、主に市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報及び収益の分解情報
前連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント					調整額 (注1)	連結財務諸表 計上額 (注2)
	ファイン ケミカル	ポラス マテリアル	サービス	不動産関連	計		
売上高							
一時点で履行義務 を充足する収益	14,063,331	7,655,282	4,939,005	819,402	27,477,021	-	-
一定期間をもって 履行義務を充足す る収益	40,534	-	13,566	-	54,100	-	-
顧客との契約から 生じる収益	14,103,865	7,655,282	4,952,571	819,402	27,531,122	-	-
その他の収益	-	-	476,354	428,162	904,516	-	-
外部顧客への売上 高	14,103,865	7,655,282	5,428,925	1,247,565	28,435,638	-	28,435,638
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	70,330	51,601	9,148	107,382	238,463	238,463	-
計	14,174,196	7,706,884	5,438,074	1,354,948	28,674,102	238,463	28,435,638
セグメント利益又は 損失()	2,211,515	1,105,756	200,694	233,289	3,751,255	9,234	3,760,489
セグメント資産	14,584,210	11,103,626	4,837,415	7,774,480	38,299,732	20,931,397	59,231,129
その他の項目							
減価償却費	236,870	282,662	127,431	118,264	765,228	-	765,228
のれんの償却額	5,750	136,990	-	-	142,740	-	142,740
減損損失	7,313	4,000	-	-	11,313	-	11,313
有形固定資産及び 無形固定資産の増 加額	381,314	1,407,752	83,219	28,594	1,900,879	-	1,900,879

(注) 1. 調整額の内容は以下のとおりです。

(1)セグメント利益又は損失()の調整額9,234千円は、セグメント間の棚卸資産取引及び不動産賃貸取引の調整額等が含まれております。

(2)セグメント資産の調整額20,931,397千円は、当社の金融資産です。

2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント					調整額 (注1)	連結財務諸表 計上額 (注2)
	ファイン ケミカル	ポラス マテリアル	サービス	不動産関連	計		
売上高							
一時点で履行義務 を充足する収益	14,710,528	8,554,330	4,975,018	1,008,056	29,247,934	-	-
一定期間をもって 履行義務を充足す る収益	27,917	-	18,243	-	46,161	-	-
顧客との契約から 生じる収益	14,738,445	8,554,330	4,993,262	1,008,056	29,294,095	-	-
その他の収益	-	-	462,007	414,395	876,403	-	-
外部顧客への売上 高	14,738,445	8,554,330	5,455,270	1,422,452	30,170,498	-	30,170,498
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	67,608	48,431	11,406	122,449	249,896	249,896	-
計	14,806,054	8,602,762	5,466,676	1,544,902	30,420,395	249,896	30,170,498
セグメント利益又は 損失()	1,724,513	1,042,559	226,719	251,534	3,245,327	11,068	3,256,395
セグメント資産	14,662,313	10,758,459	4,960,830	7,579,772	37,961,376	22,415,938	60,377,314
その他の項目							
減価償却費	235,608	328,989	118,906	119,353	802,858	-	802,858
のれんの償却額	5,750	136,990	-	-	142,740	-	142,740
減損損失	652	342,476	-	10,037	353,166	-	353,166
有形固定資産及び 無形固定資産の増 加額	352,739	1,206,793	149,320	35,846	1,744,699	-	1,744,699

(注) 1. 調整額の内容は以下のとおりです。

(1)セグメント利益又は損失()の調整額11,068千円は、セグメント間の棚卸資産取引及び不動産賃貸取引の調整額等が含まれております。

(2)セグメント資産の調整額22,415,938千円は、当社の金融資産です。

2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	アジア	北米	欧州	その他	合計
22,912,063	3,386,807	956,464	1,086,371	93,931	28,435,638

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、特定の顧客への売上高であって、連結損益計算書の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	アジア	北米	欧州	その他	合計
23,090,406	4,030,250	962,681	1,934,923	152,237	30,170,498

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、特定の顧客への売上高であって、連結損益計算書の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

（単位：千円）

	ファイン ケミカル	ポーラス マテリアル	サービス	不動産関連	合計
減損損失	7,313	4,000	-	-	11,313

当連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

（単位：千円）

	ファイン ケミカル	ポーラス マテリアル	サービス	不動産関連	合計
減損損失	652	342,476	-	10,037	353,166

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

（単位：千円）

	ファイン ケミカル	ポーラス マテリアル	サービス	不動産関連	合計
当期償却額	5,750	136,990	-	-	142,740
当期末残高	5,750	479,467	-	-	485,217

当連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

（単位：千円）

	ファイン ケミカル	ポーラス マテリアル	サービス	不動産関連	合計
当期償却額	5,750	136,990	-	-	142,740
当期末残高	-	-	-	-	-

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

該当事項はありません。

(関連当事者情報)

関連当事者との取引

前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

1. 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主 (個人の場合に限る。) 等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	(株)美輝 (注1)	大阪府 東大阪市	3,000	物流センター管理・運営、物流業務の受託、物流情報の収集処理業務 自動車用品等の販売ほか	-	営業上の取引	売上(商品) 売上(賃貸) 仕入(外注費) 業務委託費 運賃他 (注2)	20,933 3,691 8,636 46,817 28,531	売掛金 その他流動負債 買掛金 未払金	4,096 338 678 7,841
役員及びその近親者	田中明三 (注3)	-	-	当社相談役	(被所有) 直接 2.51	囑託契約	囑託料の支払 (注4)	12,000	-	-

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1.(株)美輝は、当社代表取締役田中秀明の近親者が議決権の過半数を保有しております。
2. 一般の取引条件と同様に決定しております。
3. 田中明三氏は、当社代表取締役田中秀明の実父であります。
4. 経営全般に関する助言を内容とする契約を締結し、両者協議の上決定しております。

2. 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主 (個人の場合に限る。) 等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	(株)美輝 (注1)	大阪府 東大阪市	3,000	物流センター管理・運営、物流業務の受託、物流情報の収集処理業務 自動車用品等の販売ほか	-	営業上の取引	運賃他 (注2)	15,701	未払金	1,434

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1.(株)美輝は、当社代表取締役田中秀明の近親者が議決権の過半数を保有しております。
2. 一般の取引条件と同様に決定しております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
1株当たり純資産額	2,369.05円	2,429.95円
1株当たり当期純利益	126.38円	95.11円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	潜在株式が存在しないため、記載していません。	

(注) 1. 「従業員持株会支援信託E S O P」に係る信託口が保有する当社株式を、「1株当たり純資産額」の算定上、期末発行済株式総数から控除する自己株式に含めております(前連結会計年度-株、当連結会計年度267,700株)。

また、「1株当たり当期純利益」の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております(前連結会計年度6,467株、当連結会計年度91,200株)。

2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	2,755,473	2,063,803
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(千円)	2,755,473	2,063,803
普通株式の期中平均株式数(株)	21,803,592	21,699,183

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
1年以内に返済予定の長期借入金	-	-	-	-
1年以内に返済予定のリース債務	46,074	41,492	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。) (注)2	-	295,577	-	2025年12月30日
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。) (注)4	66,029	45,394	-	2024年～2028年
その他有利子負債(注)1、(注)3	160,919	168,606	0.002	-
計	273,023	551,070	-	-

(注)1. その他の固定負債に含まれる営業預り保証金であります。

- 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)については、「従業員持株会支援信託E S O P」に係る借入金であり、借入利息は同信託口より信託収益を原資として支払われるため「平均利率」については、記載しておりません。
- 平均利率については、当期末残高に対する加重平均利率を記載しております。
- リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を定額法により各連結会計年度に配分しているため、記載しておりません。
- 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	-	295,577	-	-
リース債務	21,590	12,702	7,625	3,196

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	7,403,863	14,542,374	22,470,559	30,170,498
税金等調整前四半期 (当期) 純利益 (千円)	996,759	1,777,906	2,745,947	3,083,220
親会社株主に帰属する四半期 (当期) 純利益 (千円)	705,817	1,237,163	1,904,599	2,063,803
1 株当たり四半期 (当期) 純利益 (円)	32.54	57.03	87.79	95.11

(会計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期
1 株当たり四半期純利益 (円)	32.54	24.49	30.76	7.33

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	16,412,464	17,195,716
受取手形	34,200	42,188
電子記録債権	539,050	688,803
売掛金	2 1,449,789	2 1,490,839
有価証券	200,120	-
商品及び製品	1,517,704	1,531,090
仕掛品	156,391	139,870
原材料及び貯蔵品	553,430	571,301
前払費用	33,680	42,159
その他	2 85,461	2 212,917
貸倒引当金	1,070	223
流動資産合計	20,981,224	21,914,665
固定資産		
有形固定資産		
建物	1 3,793,958	1 3,681,784
構築物	76,139	66,963
機械及び装置	124,154	107,241
車両運搬具	49,271	41,856
工具、器具及び備品	69,750	60,780
土地	11,168,518	11,167,866
建設仮勘定	-	5,315
有形固定資産合計	15,281,793	15,131,808
無形固定資産	96,296	274,678
投資その他の資産		
投資有価証券	6,326,222	6,765,884
関係会社株式	3,349,266	2,773,466
関係会社出資金	109,790	88,290
関係会社長期貸付金	2,042,553	2,134,253
その他	184,756	202,932
貸倒引当金	448,033	513,043
投資その他の資産合計	11,564,555	11,451,782
固定資産合計	26,942,645	26,858,270
資産合計	47,923,869	48,772,935

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,537,679	2,774,822
未払金	2,228,374	2,241,241
未払費用	276,181	281,901
未払法人税等	378,000	307,000
未払消費税等	76,143	28,710
その他	2,334,254	2,307,435
流動負債合計	1,830,633	1,941,112
固定負債		
長期借入金	-	295,577
繰延税金負債	77,853	76,977
再評価に係る繰延税金負債	584,112	584,112
退職給付引当金	549,527	575,471
役員退職慰労引当金	228,080	168,400
その他	315,364	332,548
固定負債合計	1,754,938	2,033,087
負債合計	3,585,572	3,974,199
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,310,056	2,310,056
資本剰余金		
資本準備金	3,116,158	3,116,158
その他資本剰余金	170,286	211,258
資本剰余金合計	3,286,444	3,327,417
利益剰余金		
利益準備金	148,040	148,040
その他利益剰余金		
別途積立金	30,000,000	30,000,000
繰越利益剰余金	9,034,592	9,453,256
利益剰余金合計	39,182,633	39,601,297
自己株式	562,961	576,788
株主資本合計	44,216,172	44,661,982
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,314,337	1,328,964
土地再評価差額金	1,192,211	1,192,211
評価・換算差額等合計	122,125	136,752
純資産合計	44,338,297	44,798,735
負債純資産合計	47,923,869	48,772,935

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
売上高	2 14,404,717	2 15,120,026
売上原価	2 7,763,343	2 8,847,327
売上総利益	6,641,373	6,272,699
販売費及び一般管理費	1, 2 4,163,987	1, 2 4,172,659
営業利益	2,477,386	2,100,039
営業外収益		
受取利息	2 37,059	2 36,218
受取配当金	299,913	381,492
仕入割引	6,052	58
貸倒引当金戻入額	240	-
その他	2 36,558	2 42,931
営業外収益合計	379,823	460,700
営業外費用		
支払利息	3	2
貸倒引当金繰入額	15,000	65,009
その他	21,399	71
営業外費用合計	36,403	65,083
経常利益	2,820,806	2,495,657
特別利益		
固定資産売却益	507	4,025
投資有価証券売却益	-	226
特別利益合計	507	4,251
特別損失		
固定資産除却損	1,993	1,628
減損損失	3 7,313	3 7,367
関係会社株式評価損	-	4 597,300
特別損失合計	9,307	606,296
税引前当期純利益	2,812,006	1,893,612
法人税、住民税及び事業税	769,306	690,601
法人税等調整額	38,592	7,447
法人税等合計	807,898	683,154
当期純利益	2,004,108	1,210,457

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計
					別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	2,310,056	3,116,158	170,286	3,286,444	148,040	30,000,000	7,884,214	38,032,255
会計方針の変更による累積的影響額							57,536	57,536
会計方針の変更を反映した当期首残高	2,310,056	3,116,158	170,286	3,286,444	148,040	30,000,000	7,826,677	37,974,718
当期変動額								
剰余金の配当							797,748	797,748
当期純利益							2,004,108	2,004,108
自己株式の取得								
自己株式の処分								
土地再評価差額金の取崩							1,555	1,555
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	1,207,914	1,207,914
当期末残高	2,310,056	3,116,158	170,286	3,286,444	148,040	30,000,000	9,034,592	39,182,633

	株主資本		評価・換算差額等			純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	357,848	43,270,908	1,541,646	1,190,656	350,990	43,621,898
会計方針の変更による累積的影響額		57,536				57,536
会計方針の変更を反映した当期首残高	357,848	43,213,371	1,541,646	1,190,656	350,990	43,564,361
当期変動額						
剰余金の配当		797,748				797,748
当期純利益		2,004,108				2,004,108
自己株式の取得	237,284	237,284				237,284
自己株式の処分	32,170	32,170				32,170
土地再評価差額金の取崩		1,555				1,555
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			227,309	1,555	228,865	228,865
当期変動額合計	205,113	1,002,801	227,309	1,555	228,865	773,936
当期末残高	562,961	44,216,172	1,314,337	1,192,211	122,125	44,338,297

当事業年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計
					別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	2,310,056	3,116,158	170,286	3,286,444	148,040	30,000,000	9,034,592	39,182,633
会計方針の変更による累積的影響額								
会計方針の変更を反映した当期首残高	2,310,056	3,116,158	170,286	3,286,444	148,040	30,000,000	9,034,592	39,182,633
当期変動額								
剰余金の配当							791,793	791,793
当期純利益							1,210,457	1,210,457
自己株式の取得								
自己株式の処分			40,972	40,972				
土地再評価差額金の取崩								
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								
当期変動額合計	-	-	40,972	40,972	-	-	418,664	418,664
当期末残高	2,310,056	3,116,158	211,258	3,327,417	148,040	30,000,000	9,453,256	39,601,297

	株主資本		評価・換算差額等			純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	562,961	44,216,172	1,314,337	1,192,211	122,125	44,338,297
会計方針の変更による累積的影響額		-				-
会計方針の変更を反映した当期首残高	562,961	44,216,172	1,314,337	1,192,211	122,125	44,338,297
当期変動額						
剰余金の配当		791,793				791,793
当期純利益		1,210,457				1,210,457
自己株式の取得	323,757	323,757				323,757
自己株式の処分	309,931	350,903				350,903
土地再評価差額金の取崩		-				-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			14,627		14,627	14,627
当期変動額合計	13,826	445,810	14,627	-	14,627	460,437
当期末残高	576,788	44,661,982	1,328,964	1,192,211	136,752	44,798,735

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式

総平均法による原価法を採用しております。

(2) その他有価証券

市場価格のない株式以外のもの

時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は総平均法により算定)を採用しております。

市場価格のない株式

総平均法による原価法を採用しております。

2. 棚卸資産の評価基準及び評価方法

商品及び製品・仕掛品・原材料及び貯蔵品

主として総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定)を採用しております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法

ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

(2) 無形固定資産

自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間(5年)に基づく定額法、それ以外の無形固定資産については、定額法を採用しております。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

イ 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

ロ 数理計算上の差異、過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により費用処理することとしております。

(3) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、当社内規に基づく期末要支給額を計上しております。

5. 収益及び費用の計上基準

約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

主要な事業における主な履行義務の内容及び収益を認識する通常の時点は、以下のとおりであります。

(1) 商品及び製品の販売

顧客との契約において受注した商品及び製品を引き渡す義務を負っており、履行義務を充足する時点は、通常商品及び製品の引渡時であることから、当該製品等の引渡時点で収益を認識しております。なお、一部の国内販売については、出荷時から当該製品等の支配が顧客に移転されるときまでの期間は通常の期間であるため、出荷時点で収益を認識しております。また、当該製品等の販売において、返品に応じる義務を負っており、顧客からの返品が発生することが予想されます。この将来予想される返品部分に関しては、過去の実績に基づいた将来発生しうると考えられる予想返金額により算定し、販売時に収益を認識せず、返金負債を計上しております。

(2) サービスの提供

顧客との契約において受注したサービスを実施する義務を負っており、履行義務を充足する時点は、通常サービスの実施完了時点であることから、当該サービスの実施完了時点で収益を認識しております。

上記契約に定める価格から値引き及びリベートを控除した金額で収益を算定しております。

また、上記取引については、通常、短期のうちに支払期日が到来し、契約に重要な金融要素を含んでおりません。

6. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(重要な会計上の見積り)

1. 繰延税金資産の回収可能性

(1) 当事業年度の財務諸表に計上した金額

	前事業年度	当事業年度
繰延税金資産(相殺前)	535,783千円	543,895千円

(2) その他の情報

繰延税金資産は、将来減算一時差異を利用できる課税所得が生じる可能性が高い範囲内で認識しております。課税所得が生じる可能性の判断においては、将来獲得しうる課税所得の時期及び金額を合理的に見積り、金額を算定しております。これらの見積りは将来の不確実な経済状況及び会社の経営状況の影響を受け、実際に生じた時期及び金額が見積りと異なった場合、翌事業年度以降の財務諸表において認識する金額に重要な影響を与える可能性があります。

2. 固定資産の減損

(1) 当事業年度の財務諸表に計上した金額

	前事業年度	当事業年度
減損損失	7,313千円	7,367千円

(2) その他の情報

固定資産に減損の兆候が存在する場合には、当該資産の将来キャッシュ・フローに基づき、減損の要否の判定を実施しております。減損の要否に係る判定単位であるキャッシュ・フロー生成単位については、他の資産又は資産グループのキャッシュ・インフローから概ね独立したキャッシュ・インフローを生成させるものとして識別される資産グループの最小単位としております。

固定資産の減損の要否の判定において、将来キャッシュ・フロー、割引率及び長期成長率等について一定の仮定を設定しております。これらの仮定は将来の不確実な経済状況及び会社の経営状況の影響を受け、翌事業年度以降の財務諸表に重要な影響を与える可能性があります。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる当事業年度に係る財務諸表への影響はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引及び会計上の見積りを行う上での新型コロナウイルス感染症の影響に関する注記については、連結財務諸表「注記事項(追加情報)」に同一の内容を記載しておりますので、注記を省略しております。

(貸借対照表関係)

1 有形固定資産に係る国庫補助金の受入れによる圧縮記帳累計額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
建物	7,665千円	7,665千円

2 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務(区分表示したものを除く)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
短期金銭債権	15,121千円	13,913千円
短期金銭債務	87,443	106,374

(損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
広告宣伝費	316,344千円	338,415千円
販売促進費	223,830	258,406
運賃及び荷造費	587,744	586,955
給料手当及び賞与	1,184,664	1,127,072
役員退職慰労引当金繰入額	28,280	25,000
減価償却費	157,009	151,682
研究開発費	317,021	286,216
販売費に属する費用のおおよその割合	27.4%	28.7%
一般管理費に属する費用のおおよその割合	72.6	71.3

2 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
営業取引による取引高		
売上高	221,656千円	219,657千円
仕入高	925,074	921,358
販売費及び一般管理費	13,281	12,935
営業取引以外の取引による取引高	81,078	26,201

3 減損損失

当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

前事業年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

場所	用途	種類
岐阜県高山市	遊休資産	土地
大阪府大阪市他	遊休資産	その他無形固定資産

当社は、主として継続的に収支の把握がなされる事業内容又は事業所単位に基づき資産のグルーピングを行い、貸貸用資産及び使用の見込みがない遊休資産は原則として物件ごとに個別のグループとし、独立したキャッシュ・フローを生み出さない本社及び厚生施設等については共用資産としております。収益性が低下し投資の回収が見込めなくなった資産グループについて帳簿価額を回収可能価額まで減少し、当該減少額を減損損失として7,313千円を特別損失に計上しております。その内訳は、土地3,741千円、その他無形固定資産3,572千円であります。

なお、回収可能価額は、土地については、固定資産税評価額等に基づく正味売却価額により測定し、その他無形固定資産の電話加入権については、市場価額等に基づく正味売却価額により測定しております。

当事業年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

場所	用途	種類
極楽湯尼崎店（兵庫県）	温浴店舗 （温浴設備及び飲食設備等）	建物 工具、器具及び備品
岐阜県高山市	遊休資産	土地

当社は、主として継続的に収支の把握がなされる事業内容又は事業所単位に基づき資産のグルーピングを行い、貸貸用資産及び使用の見込みがない遊休資産は原則として物件ごとに個別のグループとし、独立したキャッシュ・フローを生み出さない本社及び厚生施設等については共用資産としております。収益性が低下し投資の回収が見込めなくなった資産グループについて帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額7,367千円を減損損失として特別損失に計上しております。その内訳は、建物5,983千円、工具、器具及び備品732千円、土地652千円であります。

なお、回収可能価額は、土地については、固定資産税評価額等に基づく正味売却価額により測定しております。その他の資産については、使用価値により測定しており、使用価値は零として評価しております。

4 関係会社株式評価損

前事業年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

連結子会社の株式等に対する評価損を計上しており、アズテック㈱の株式に係る評価損575,800千円及び上海速特99化工有限公司の出資金に係る評価損21,500千円であります。

（有価証券関係）

子会社株式

市場価格のない株式等の貸借対照表計上額

区分	前事業年度 （千円）	当事業年度 （千円）
子会社株式	3,349,266	2,773,466

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
繰延税金資産		
未払費用	75,615	74,796
未払事業税	26,040	21,700
棚卸資産評価損	3,686	22,553
減損損失累計額	460,784	446,969
ゴルフ会員権評価損	14,024	14,024
退職給付引当金	170,353	178,396
役員退職慰労引当金	70,704	52,204
関係会社株式等評価損	604,548	789,711
関係会社貸倒引当金	130,200	150,350
貸倒引当金	9,022	8,762
返金負債	71,842	67,989
その他	31,884	36,375
繰延税金資産小計	1,668,706	1,863,832
将来減算一時差異等の合計に係る 評価性引当額	1,132,922	1,319,936
繰延税金資産合計	535,783	543,895
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	590,499	597,071
返品資産	23,137	23,802
繰延税金負債合計	613,637	620,873
繰延税金負債の純額	77,853	76,977

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
	(%)	(%)
法定実効税率	31.0	31.0
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.3	0.6
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	2.7	5.1
住民税均等割	0.7	1.0
税額控除	0.8	0.4
評価性引当額の増減	0.8	9.9
その他	0.6	0.9
税効果会計適用後の法人税等の負担率	28.7	36.1

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、「注記事項(重要な会計方針)5.収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形 固定資産	建物	3,793,958	93,064	6,075 (5,983)	199,163	3,681,784	6,004,853
	構築物	76,139	-	-	9,176	66,963	838,632
	機械及び装置	124,154	16,191	0	33,104	107,241	1,840,533
	車両運搬具	49,271	14,983	904	21,493	41,856	151,921
	工具、器具及び備品	69,750	31,231	759 (732)	39,442	60,780	839,941
	土地	11,168,518 [608,099]	-	652 (652)	-	11,167,866 [608,099]	-
	建設仮勘定	-	5,315	-	-	5,315	-
	計	15,281,793	160,786	8,391 (7,367)	302,379	15,131,808	9,675,882
無形 固定資産	ソフトウェア	87,324	11,334	-	33,364	65,294	-
	その他	8,972	204,266	3,648	206	209,383	-
	計	96,296	215,600	3,648	33,570	274,678	-

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは次のとおりであります。

建物	増加額	三田工場屋根工事	52,000千円
		本社エレベーター制御盤交換	19,800
		C u C u真砂エレベーター改修工事	6,250
機械及び装置	増加額	ラベラー機	7,645
車両運搬具	増加額	社有車5台	13,083
工具、器具及び備品	増加額	金型7台作製	18,764
ソフトウェア	増加額	どらあぷシステム開発	5,927
無形固定資産のその他	増加額	基幹システム開発	204,266

2. 「当期減少額」欄の()は内書きで、減損損失の計上額であります。

3. 「当期首残高」、「当期末残高」欄の[]は内書きで、「土地の再評価に関する法律」(平成10年3月31日公布法律第34号)により行った事業用土地の再評価実施前の帳簿価額との差額であります。

【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	449,104	65,009	847	513,266
役員退職慰労引当金	228,080	25,000	84,680	168,400

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数(注)	100株
単元未満株式の買取り・売渡し	
取扱場所	(特別口座) 大阪市中央区伏見町3丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	-
買取・売渡手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告とします。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 電子公告のURL https://www.soft99.co.jp/ir/koukoku.html
株主に対する特典	毎年3月31日現在の株主名簿及び実質株主名簿に記載又は記録された100株(1単元)以上保有の株主様に対し、以下の基準により優待を実施いたします。 (1) 3年未満保有 100株以上500株未満保有の株主様 当社指定製品セット(選択なし) 500株以上1,000株未満保有の株主様 当社及びグループ会社の製品・サービス又は緑の募金 5コースの中から2コース選択 1,000株以上保有の株主様 当社及びグループ会社の製品・サービス又は緑の募金 5コースの中から3コース選択 (2) 3年以上保有 100株以上500株未満保有の株主様 当社指定製品セット(選択なし) 500株以上1,000株未満保有の株主様 当社及びグループ会社の製品・サービス又は緑の募金 5コースの中から3コース選択 1,000株以上保有の株主様 当社及びグループ会社の製品・サービス又は緑の募金 5コースの中から4コース選択

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、取得請求権付株式の取得を請求する権利、株主の有する株式数に応じて募集株式又は募集新株予約権の割当てを受ける権利並びに単元未満株式の売渡請求をする権利以外の権利を有しておりません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度(第68期)(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日) 2022年6月29日近畿財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

2022年6月29日近畿財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

(第69期第1四半期)(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日) 2022年8月5日近畿財務局長に提出

(第69期第2四半期)(自 2022年7月1日 至 2022年9月30日) 2022年11月8日近畿財務局長に提出

(第69期第3四半期)(自 2022年10月1日 至 2022年12月31日) 2023年2月9日近畿財務局長に提出

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書を2023年6月29日近畿財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の4(監査公認会計士等の異動)の規定に基づく臨時報告書を2023年5月19日近畿財務局長に提出

(5) 有価証券届出書(組込方式)及びその添付書類

2022年11月25日近畿財務局長に提出

(6) 訂正有価証券届出書(組込方式)

2022年12月1日近畿財務局長に提出

(7) 自己株券買付状況報告書

報告期間(自 2023年5月15日 至 2023年5月31日) 2023年6月1日近畿財務局長に提出

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2023年6月29日

株式会社ソフト99コーポレーション

取締役会 御中

ひびき監査法人

大阪事務所

代表社員 公認会計士 安原 徹
業務執行社員

代表社員 公認会計士 石原 美保
業務執行社員

<財務諸表監査>

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ソフト99コーポレーションの2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ソフト99コーポレーション及び連結子会社の2023年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当連結会計年度の連結財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、連結財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

のれんの評価	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>注記事項（重要な会計上の見積り及び連結損益計算書関係の「減損損失」）に記載のとおり、連結子会社であるアズテック株式会社の株式取得時に発生したのれんに関して、当連結会計年度ののれん残高324百万円を全額減損損失に計上している。</p> <p>のれんに減損の兆候が認められる場合には、のれんが帰属する事業から得られる割引前将来キャッシュ・フローの総額と帳簿価額を比較することにより、減損損失の認識の要否を判定する必要がある。その結果、減損損失の認識が必要と判定された場合、帳簿価額が回収可能価額まで減額され、減損損失は当該減少額として測定される。</p> <p>割引前将来キャッシュ・フローの見積りにおける上記の重要な仮定は、将来の市況等による不確実性を伴い、経営者による判断を必要とするため、当監査法人は当該事項を「監査上の主要な検討事項」に該当すると判断した。</p>	<p>当監査法人は、のれんの評価を検討するに当たり、主として以下の監査手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のれんの減損の兆候の把握、減損損失の認識の要否、減損損失の測定に至るまでののれんの評価に関連する内部統制の整備状況及び運用状況を評価した。 ・のれんの評価に用いられた事業計画と実績の比較分析を行った。 ・市場環境及び景気動向を考慮し、将来キャッシュ・フローの見積りの合理性を検証した。 ・将来の事業計画の実現可能性及び事業計画に考慮されている重要な仮定の合理性について財務報告の責任者に質問した。 ・将来の事業計画の成長性については、一定のリスクを反映させた経営者による不確実性の評価について検討した。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうかを注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。

- ・ 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会と協議した事項のうち、当連結会計年度の連結財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

< 内部統制監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社ソフト99コーポレーションの2023年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、株式会社ソフト99コーポレーションが2023年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

内部統制報告書に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・ 財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2023年6月29日

株式会社ソフト99コーポレーション
取締役会 御中

ひびき監査法人
大阪事務所

代表社員 公認会計士 安原 徹
業務執行社員

代表社員 公認会計士 石原 美保
業務執行社員

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ソフト99コーポレーションの2022年4月1日から2023年3月31日までの第69期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ソフト99コーポレーションの2023年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当事業年度の財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

関係会社株式の評価	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>注記事項（損益計算書関係の「関係会社株式評価損」）に記載のとおり、連結子会社であるアズテック株式会社の株式1,041百万円（減損前簿価）及び上海速特99化工有限公司への出資金109百万円（減損前簿価）について減損処理を行い、597百万円の関係会社株式評価損を計上している。（関係会社株式および関係会社出資金を合わせて以下「関係会社株式等」という。）</p> <p>関係会社株式等は、1株当たりの純資産額に所有株式数を乗じた金額を基礎とした実質価額が取得原価の50%以上低下したものについて、回復可能性が十分な証拠により裏付けられる場合を除き減損処理を行っている。また、会社の超過収益力等を反映して、1株あたり純資産額に比べて高い価額で当該会社の株式等を取得している場合においては、超過収益力等が見込めなくなったときには、これを反映した実質価額が取得原価の50%以上低下している場合に、減損処理を行っている。</p> <p>関係会社株式等の残高に金額的重要性があること、また、減損の検討にあたり、実質価額の回復可能性については経営者の判断を伴うため、当監査法人は、関係会社株式等の評価を「監査上の主要な検討事項」に該当すると判断した。</p>	<p>当監査法人は、関係会社株式等の評価を検討するに当たり、主として以下の監査手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係会社株式等の評価に関する内部統制を理解し、その整備状況及び運用状況を評価した。 ・関係会社各社の実質価額算定に用いられた純資産額が各社の貸借対照表と一致するかを確かめた。 ・実質価額と取得原価を比較し、実質価額が取得原価の50%以上低下している関係会社株式等について、回復可能性が十分な証拠により裏付けられている場合を除き、減損損失が計上されていることを確かめた。 ・実質価額が取得原価の50%以上低下しており、回復する見込みがない関係会社株式等について、会社の方針に従い減損損失が計上されているかを再計算した。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうかを注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を

立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。

- ・財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会と協議した事項のうち、当事業年度の財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。

2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。